



令和6年度 創造教育開発センター 年 次 報 告 書

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

令和 6 年度（2024 年度） 創造教育開発センター活動のまとめ

令和 6 年度創造教育開発センター長 米田知晃

1. はじめに

本センターは、平成 19 年度（2007 年度）に FD 委員会、教育改善委員会等の役割を統合し、発足したセンターである。現在本センターでは、次の項目を業務内容として挙げている。

- (1) 教育改善、FD 及び学習支援に関すること。
- (2) 教育課程の調査・検討に関すること。
- (3) メディア教育に関すること。
- (4) 教員間の教育的連携に関すること。
- (5) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

授業評価アンケートの実施、公開授業週間の実施、FD 研修会等の企画も継続的に行っている。

以下に、令和 6 年度に本センターで取り組んだ事項を説明し、今後の課題なども示す。

2. 令和 6 年度の活動

2-1. 教育改善、FD 及び学習支援に関すること。

(1) FD 講演会及び研修会について

令和 6 年度に本校で行った主な FD 活動（講演会及び研修会の開催、学外 FD 活動への参加）は次のとおりである。

- ・ 11 月 8 日（金）に、FD 研修会として教務システム運用説明会を実施した。
- ・ 11 月 20 日（水）に、FD 演会として教学 IR に関する講演会を実施した。
- ・ 12 月 18 日（水）に、FD 研修会として「新 MCC（モデルコアカリキュラム）の概要の説明、本校の対応」を実施した。
- ・ 3 月 5 日（水）に、新任教員研修会を実施した。
- ・ 3 月 7 日（金）に、株式会社リアセックの担当者から「PROG テストの解説」を実施した。

これら以外の教員 FD に関する研修会、講習会などに参加する教員への支援も継続的に行っている。

(2) 公開授業週間

令和 6 年度は前期が 5 月 13 日（月）～17 日（金）、後期が 12 月 16 日（金）～20 日（金）の期間で公開授業週間を実施した。前期に参加した教員は 42 名、参加授業数は 45 件、後期に参加した教員は 32 名、参加授業数は 34 件、前期または後期において公

開授業に1回参加した教員は47名（65.3%）であった。

（3）学習支援について

本センターはこれまでも学習支援に関して教員への支援を行ってきたが、令和3年度に設置された「学習支援室」との関係により、学習支援する教員への支援についてワークショップの実施などを含めて検討中である。

2-2. 教育課程の調査・検討に関すること。

（1）工学倫理および数理データサイエンス・AI教育プログラムワーキンググループ

「工学倫理」に関するワーキンググループにおいて、実施した授業内容、シラバス等について情報共有および検討を行った。新しいMCCへの対応を含めて、情報倫理の導入についても検討している。

数理データサイエンス・AIに関するワーキンググループにおいて、エンジニアリング・データサイエンスプログラムでの具体的な実施内容について検討している。

（2）PROGテストについて

昨年度までは創造教育開発センター主導で実施していたPROGテストに関しては、学内への導入が出来たため、今後は進路指導に活用することを主眼としてキャリア支援室にて実施していただくように変更した。今年度も担任の協力を得て、3年生、4年生を対象としたPROGテストを12月2日（月）、3日（火）に実施した。また、1月22日（水）、23日（木）にそれぞれ3年生、4年生を対象としたPROGテストの解説会とワークを、3月7日（金）には、教員を対象とした解説会を行った。

（4）授業アンケート

今年度の授業アンケートは、令和4年度後期から実施したMicrosoft Formsを利用し、試験前の14～15週目に半期科目・通年科目に関わらずすべての開講科目について実施した。ほとんどのクラスで高い回答率を得ることができた。各科目の集計結果を表とグラフで閲覧できるように改善し、全体の集計結果を教員会議で報告した。今後は、アンケート結果をどのようにして授業改善につなげていくのか方法について継続的に検討する。

2-3. 教員間の教育的連携に関すること

（1）教員間ネットワーク会議

今年度は、教員間ネットワーク会議の見直しを行い、学際カリキュラムの担当者の打合せや、工学倫理のワーキンググループの活動をネットワーク会議と位置付けることにより、年一回の開催から複数回の開催へと内容を充実させつつ、関連する一般科目及び

専門科目、あるいは学科をまたぐ学習・教育目標に関連する科目を担当する教員間の連携を機能的に行うための会議として実施した。KIS 受審を受けて、卒業研究に関する WG の新設および情報に関するネットワークの変更を検討した。

3. 今後の改善課題など

3-1. 教育改善、FD 及び学習支援に関すること

公開授業週間への取り組みを検討する必要がある。教務主事団が作成した「授業点検シート」なども上手く使いながら、授業改善の仕組みを考える。

FD 活動については、教育の質保証につながるような複数の FD 研修会・講演会を今後とも実施する。

学習支援については、継続してセンターとしての関わり方を検討する。

3-2. 教育課程の調査・検討に関すること

工学倫理が令和 4 年度から開講されたが、WG は今後も担当者会議として継続的に実施する。数理・データサイエンス・AI に関する WG は次年度も、本校の教育プログラムの充実に向けて検討を継続する。

3-3. 教員間の教育的連携に関すること

教員間ネットワーク会議の在り方も含めて本センターで検討し、継続的に実施している学内 WG を学校としての教育改善に繋げる。

目 次

○ F D活動	
・創造教育開発センター関連実施行事	6
・福井高専のF D等取り組み概要（本校 HP）	7
○ 公開授業	
・公開授業週間およびF Dレポートのまとめ	9
○ F D研修会（センター主催）	18
○ 教員間ネットワーク会議	36
○ 各種アンケート	38

FD 活動

創造教育開発センター関連実施行事【令和6年度】

月	行事内容	備考	月	行事内容	備考
4月	令和6年度行事計画等作成		10月		
	第1回運営委員会・センター会議(4/19(金))				
5月	前期公開授業週間(5/13(月)～5/17(金))		11月	第5回センター会議(11/5(火))	
	新任教員研修(eラーニング教材の導入)			第6回センター会議(11/26(火))	
				教員間ネットワーク会議開催(7会議)	
6月	第2回センター会議(6/4(火))		12月	FD研修会(教務システム運用説明会)(11/8(金))	
	令和5年度創造教育開発センター年次報告書発行			教学IRIに関する講演会(11/20(水))	
7月	第3回センター会議(7/2(火))		1月	FD研修会(MCCIに係る説明会)(12/18(水))	
	学生による授業評価アンケート(7/16(火)～7/29(月))			後期公開授業週間(12/16(月)～12/20(金))	
8月			2月	学生による授業評価アンケート(1/23(木)～2/5(水))	
				他高専調査(大分高専)(1/31(金))	
9月			3月	第7回センター会議(2/3(火))	
	第4回センター会議(9/24(火))			教員間ネットワーク会議開催(7会議)	
				第8回センター会議(3/10(月))	
				初年度教員との面談研修(3/5(火))	

FD講演会（教学 IR に関する講演会）を開催しました。

令和6年11月20日（水）に福井大学アドミッションセンター教授 大久保 貢先生を講師にお迎えし「学生情報データの分析方法及び探究活動を通しての入試広報戦略について」をテーマにFD講演会（教学 IR に関する講演会）を開催しました。まず、入試成績、留年者等における学業成績との相関関係について説明の後、関係者等と開発したルーブリックの解説があり、高大連携、特に入学前に探究活動を行っていることがいかに入学後においても重要であることを強調した講演を行っていただきました。

その後、質疑応答が行われ、より良いデータ分析や入試広報授業方法の在り方について全体で共有する良い機会となりました。



公 開 授 業

令和6年度「公開授業週間およびFDレポート」のまとめ

創造教育開発センター

1 公開授業の目的と公開授業週間

目的：授業参観時間の拡大を図り、他の教員の授業方法等を参考とする機会を増やすことで、各教員の授業改善の参考とする。

前期：令和6年 5月13日（月） ～ 5月17日（金）

後期：令和6年12月16日（月） ～ 12月20日（金）

2 参観教員数

表1 令和6年度前期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	10	3	3
電気電子工学科	9	6	7
電子情報工学科	9	5	6
物質工学科	11	7	7
環境都市工学科	9	7	8
一般科目教室（自然科学系）	13	7	7
一般科目教室（人文社会科学系）	11	7	7
計	72	42	45
参観率（%）	42/72	58.3%	

表2 令和6年度後期公開授業週間参観状況

学科等名	現員数	参観者数	レポート提出数
機械工学科	10	5	5
電気電子工学科	9	4	4
電子情報工学科	9	3	3
物質工学科	11	6	6
環境都市工学科	8	4	4
一般科目教室（自然科学系）	13	4	4
一般科目教室（人文社会科学系）	11	6	8
計	71	32	34
参観率（%）	32/71	45.1%	

現員数は短時間勤務教員を除く常勤教員数を掲載。

○ 公開授業週間の参観者率の推移（過去3年間）について、令和3年度は前後期通して1回以上参観した教員の参加率は59.5%、令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響からか52.8%にとどまった。令和5年度は78.9%と、平成30年度（75%）と比較して同程度となったものの令和6年度は65.3%と減少したため、参加率の向上に努めたい。

3 参観したクラス

表3 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（前期）

		参観した授業（学科・教室・専攻科）									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械	2	1								3
	電気電子		7								7
	電子情報			6							6
	物質				5		2				7
	環境都市					7	1				8
	自然			1	1	2	2	1			7
	人文						1	6			7
合計		2	8	7	6	9	6	7			45

表4 どの学科・教室の公開授業に参加したか？（後期）

		参観した授業（学科・教室・専攻科）									合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	学際	専攻科	
参加教員の所属	機械	2					2	1			5
	電気電子		3				1				4
	電子情報			2			1				3
	物質				3		2	1			6
	環境都市					4					4
	自然			1			3				4
	人文	1		1			1	5			8
合計		3	3	4	3	4	10	7			34

- 概ね、所属する学科・教室の授業を参観する傾向にあるが、参観された授業のうち 27.8%が他学科（学際含む）の授業であった。これは令和5年度（25%）と同水準であり、センターとしても、今後も自身の専門領域に拘らずに他学科・教科の授業も積極的に参観して頂くように働きかけたい。

表5 どの学年の公開授業に参加したか？（前期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械			2	1			3
	電気電子	1	2	3		1		7
	電子情報	2	1	1	2			6
	物質	2		2	2	1		7
	環境都市	3		3	1		1	8
	自然	1	4	1	1			7
	人文		4	2		1		7
合計		9	11	14	7	3	1	45

表6 どの学年の公開授業に参加したか？（後期）

		参観した学年						合計
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	
参加教員の所属	機械	1	1	2	1			5
	電気電子	1		2		1		4
	電子情報		2	1				3
	物質	1		3	2			6
	環境都市	2	2					4
	自然	3	1					4
	人文	2	2	3		1		8
合計		10	8	11	3	2		34

- 参観した学年について、令和6年度は前後期を通して件数の多い順に3年25件、1年、2年各19件、4年10件、5年5件、専攻科1件となった。低学年の参観数が多い傾向にある。

令和6年度(前期)公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	■ 参 考 に な っ た 点							■その他	
					板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認		その他
一般(人文)	2E	国語Ⅱ	5月14日(火)	4	板書は少なく、配布物が準備されていた。スマホを利用した検索もあった。	聞き取りやすい声で、文章の音読は、会話文と地の文で声色が若干違った。	導入は「読みとカタカナ語の小テスト」であり、学生が卒業してから必要となる「語彙力や読む力」を伸ばすことにつながるものであった。	1時間で扱う内容、単元としては非常に多く、いずれも「生きる力を書くこと」によって高めていく」という考えに沿ったものであった。	配布物も多く、良く作り込まれたものであった。学生が知っていた方が良いと思われる、いわゆる「教養」となる内容も含まれていた。	一つ一つの内容(活動)の時間は長くないので、学生としては集中できていたように思う。	「今日の授業の理解度」というより、「これ」を続けていくというんな力が付いていく」という感じであった。	「相手に伝える力」「要約力」「耳と目と両方で味わう」「日本人の教養」「言語生活に役立つ」「名作を毛嫌いしないで読んでみる」「テーマが何かを考えずに、文章の力を感じることで、文学を読む、映画を見るきっかけに」など、興味深い言葉がたくさんあった。	授業後のお話して、「授業がスタートで、学生が興味、関心を持って自分で学ぶきっかけや刺激を(授業で)与えたい」という言葉が印象に残りました。
一般(人文)	2B	国語	5月13日(月)	4	・板書の字がきれい大きく、見やすい。	・適切な声の大きさ、スピードで聞きやすい。		・講義形式で漢文、古文、文学作品を扱っていた。	・語彙、漢文、文学作品のプリント			・アクセント「橋」「箸」の違い	・授業の目標が知リたかった。
一般(人文)	3E	国語	5月17日(金)	3		・聞きやすい発声。声がよく通る。	・顔を見て出席を取っていた。 ・前回の授業を振り返り、今回の学習内容へとスムーズに展開していた。	・講義の中に話し合いを入れており、メリハリがあった。		・1回の話し合いは2分と決まっていた。	・個人指名をしていた。	・学生の後ろに立って範読していた。学生は内容に集中できているようだった。	・学生の発言に対する肯定的FBが多く、学生の意欲を喚起させていた。
一般(人文)	3C	国語Ⅲ	5月16日(木)	3	黒板への板書の字が丁寧であった。	聞き取りやすい。	五分間で復習を丁寧にしていた。	教員の説明と学生の取り組み時間のバランスが良い。	プリントを用いてポイントを絞った授業を行っていた。	ちょうどよい。	授業の最後まで参観できなかったが、前時の確認を行いながら進めていた。	学生が手を挙げて発言していた。	
一般(人文)	5E1	英語Ⅴ	5月15日(水)	2	・最初に講義内容を板書にて説明していた。英語が理解できていない様子の学生もいた。	・以前と変わらず、様々な学生を頻繁に指名し、英語発話の機会を多く与えていた。	・講義開始時にまず今回の講義の学習内容について要点を説明していた(前述)。	・タスク(課題プリント)を自主作成して、アクティブラーニング(学生主体の学習)を設定していた。	・世界的有名なテキスト(TOEIC®対策を含む)を使用していた。	・学生の英語応答を確認し理解状況を把握していた。理解度が低い場合に発話を無理強いしていなかった。	・平易な英語を使い、フレンドリーな姿勢で学生に接する努力をしていた。	・総合的に問題ない講義であった。	・特記事項はなかった。
一般(人文)	2M	英語Ⅱ	5月17日(金)	1	キーワードを板書し明示していた。	学生の関心の度合いに合わせた発問を行っていた。	導入ではないが、次回実施予定の活動の先行事例を提示し、活動のイメージを持たせるよう工夫していた。	学生とのやりとりを多く心がけていた。	英語科で共有した資料を、自身のクラスに合うようにアレンジして使用していた。		学生とのやりとりを多く心がけていた。		2年生共通で導入予定の活動について教員間で授業を見合いながら、機能した点、機能しなかった点、指導する際の留意点等について話し合うきっかけとなった。
一般(人文)	2B	英語Ⅱ	5月17日(金)	3						あらかじめログインなどで時間が取られることを予想し、英会話レッスンの予約をとっていた。	英会話終了後に振り返りシートを記入させていた。		
一般(自然)	3C	解析Ⅱ	5月16日(木)	1	演習室の端末から、動画を視聴させる。上手に使わせていた。	動画なので、よいと思います。	プリントを配布したうえで、動画を視聴させる流れで、上手に導入していた。	プリントと動画の併用で、学習させる。端末を上手に使わせていた。			課題が提出される都度、確認していた。		
一般(自然)	F2	物理基礎	5月14日(火)	3	・プロジェクト用資料が充実しており理解の助けになる。	・問題なし。ゆっくり丁寧。	・中間試験へ向けて注意事項を述べていた。	・実験データや映像を多用し、事実ベースで説明を展開していた。	・プロジェクト用資料はおりじなるのものだった。	・適切と思われる。	・teamsを利用した復習や小テストを課している。		
一般(自然)	2M	解析	5月17日(金)	3	板書は、綺麗な字で書かれており、配置も整理されていて非常に見やすかった。	整理された情報を聞き取りやすい声で説明されていた。適度に間をあげ抑揚のある声で説明されていた。	授業の冒頭で今日学習する内容の確認と前回の振り返りが行われていた。	演習と説明のバランスが良い。 教員の質問に対して回答する学生をランダムで選ぶ(教員の手元のくじで選ぶ)方法が採用されており、受講する学生が程よい緊張感をもって受講していた。	事前にプリントが配布されており、学生は適宜プリントに板書内容を書き写していた。また復習の時には、配布プリントを繰り返し見ながら授業を聞いていた。	長すぎず、短すぎず、学生が緊張感を持って取り組むための時間が設けられていた。	授業の冒頭だけでなく、これまでに学習してきた内容を適宜思い出し復習する機会が作られていた。状況に応じて学生に向けてヒントが提示され、学生が自力で答えに辿り着け回答できるような工夫が見られた。	見学者自身の授業にも積極的に取り入れたいと思う内容であり、大変勉強になった。	
一般(自然)	4C	応用物理Ⅱ	5月16日(木)	1	・大きめの字を書いていた。 ・大事な文字は赤字、3色使用。	・声はやや大きめで、ややゆっくりめであった。	・座席順で出席を取っていた。	・授業内容と教科書の対応関係を明示していた。			・過去(3年生以前)の物理の授業内容を思い出させ、学生に質問していた。		
一般(自然)	F2	化学	5月16日(木)	1	・板書の字がきれいで見やすい。	・声を張っていた。		オリジナルプリントを作成してプリントに記入させていた。	オリジナルプリント	眠くなる前にプリント作業に入っていてバランスがよかった。	前週のプリントも用いながら確認を行っていた。		
一般(自然)	3B	数理統計学	5月17日(金)	2	・プロジェクトの資料が見やすかった	聞き取りやすく、スピードも適切であった。			演習プリント		はじめに内容の説明をした後、学習内容に関する演習プリントを解く形式であった		
機械	3M	機械設計製図Ⅰ	5月13日(月)	3		・声が明瞭で聞きやすかった。	・導入時に課題で間違いが多かった箇所を丁寧に説明されていた。				・課題で間違いが多かった箇所を丁寧に説明されていた。		
機械	4M	流れ学Ⅱ	5月17日(金)	2	板書の図及び字が綺麗で見やすい	ゆったりとしたスピードで、大事なところは繰り返し説明をしていた	前回の配布物(課題)の解説をしていた	説明後にノートをとる十分な時間を設けていた。また、説明後に実習を直ぐ行い、記憶の定着を図っていた	配布物には図が多く取り入れられており、詳細な説明も行っていた	おおよそ半分の時間が演習にあてられていた	毎回、授業最後に時間を外学習が十分とれる課題を与えていた		授業入替のため、5/17になっている。
電気電子	3E	情報処理Ⅱ	5月14日(火)	4	BYOD授業資料はWebClassから閲覧可能	適切	前回の振り返りを含む		資料はWebClassから閲覧	説明20分 実習70分で課題を実施	質問には随時答える形で実施していた		
電気電子	5E	電気回路Ⅳ	5月17日(金)	1	・黒板を2つに区切って使用 ・大きな字で後ろから見やすい	・後ろまで聞き取りやすい大きさの声 ・ノートをとる時間をとるつつ進めていた	・冒頭で点呼により出席確認 ・前回内容の説明から授業に入る	・板書による説明と理解度確認のための課題をセットで運営	・課題を与える	・時間外学習として課題を与える	・各授業の内容の理解を自己確認できる課題をTeamsを用いて配布		
電気電子	3E	情報処理Ⅱ	5月14日(火)	3	・スライドの文字が大きくわかりやすい	・ゆっくりと話されて聞きやすい。		・演習主体の授業で学生が興味を持って取り組んでいた。		・この日は演習主体の授業だった	・学生自ら積極的に質問をしていた。		
電気電子	3E	計測工学	5月16日(木)	1	パワーポイントの字が見やすい大きさであった。スライドに加筆したり、黒板を使うことで重要な点が理解しやすい。	全員が聞き取れる大きさと、聞き取りやすいスピードで話していた。		物理現象によってSI単位系について丁寧に説明していた。			適時、学生に問いかけ、回答させている。		
電気電子	F2	専門基礎Ⅱ	5月17日(金)	1	・必要なポイントを書いている	・内発的動機づけを意識した説明をしている		・実習と説明のバランスが良い。			・授業中にノートを取らせて、レポートにまとめさせていた。		
電気電子	2E	電気磁気学Ⅰ	5月17日(金)	2	・PPTが後ろからでも見やすかった。	・後ろからでも声が聞きやすかった。	・前回授業の振り返りをしていて、分かりやすい。	・理論説明後に演習を行っているの、頭に入りやすい。	・授業内容をまとめるためのプリントを配っており、必ず復習する機会を与えている。	・演習時は教室内を巡回していて、学生の進度に合わせている。	・授業の振り返りをさせて、それを回収しているため、理解度の把握がしやすい。		

令和6年度(前期)公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
					板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
電気電子	2E	電気数学	5月15日(水)	3	大変見やすく書かれていた。	ゆっくりと、丁寧に説明していた。	クラス内をつぶさに観察し、普段と違う様子を見せる学生がいれば気づいていた。	演習中心で、学生は地力がつくと考えられる。		理解度が高くない学生にも十分配慮しているようで、大変参考になった。	毎週課題を提出させている。教員のきめ細やかな対応には感服した。		
電気電子	3E	電気回路Ⅱ	5月22日(水)	2	スライドの文字が大きく後ろからでもはっきり見えた		最初に課題の解答説明を行い、授業に入っていた。	電力中研が作成した動画を学生に見せて、電力についての復習・導入を行っていた。	課題プリントを最初に配布し、今日の内容について説明していた。				
電子情報	2E1	電子工学基礎	5月20日(月)	1	プロジェクタと板書を併用していた。	穏やかな話し方だった					課題の理解度を確認していた。		
電子情報	4E1	計算機構成論Ⅱ	5月17日(金)	2	説明用のパワポと配布用のパワポを分けており、講義中にメモを取れる時間を設けている。	声は後ろまでよく聞こえる	パワポを使い ・この単元の目標 ・前回の復習		パワポの資料を事前に配布？あるいはダウンロードして印刷させてある		時間の関係でやらなかったが、演習問題を取り入れている		
電子情報	F5	専門基礎3	5月17日(金)	1		落ち着いたスピードで分かりやすいと感じました。				今後、プログラム開発を行いたいのか、ハードを用いたシステムを作りたいかネットワーク関係を学びたいかなど質問し、挙手で反応させている点が良いと感じました。	1年生の授業なので、説明したことが、今後何年生で、詳しく学ぶかを説明されていることがよかったです。		
電子情報		プロジェクト演習	5月17日(金)	4					付箋を貼って、学生間での質問交換ができるようにしていた			学生が質問しやすい雰囲気づくりが良かった	学生のアイデア発表の時間だった
電子情報	F5	専門基礎3	5月17日(金)	1	スライドの字が大きくみやすい。	声が聞き取りやすく、後ろまで届いていた。							
電子情報	2E1	情報工学基礎	5月17日(金)	1	図を中心にダイナミックに黒板を使っており、授業に引き込まれる。教科書だけではできない学びの促進。	重要な点は間を空けたり、声のトーンを変えたり、どう重要かを言語化したりして学生に伝えていた。	先週の講義の内容と身の回りのものと関連づけ、覚えておくべき考えを図で説明していた。関心と意欲を高める導入。	何が目標であるか、重要であるかを度々学生と共有していた。メリハリのある説明・板書の流れ。					
電子情報	3E1	プログラミング応用	5月17日(金)	2	要点がわかりやすい丁寧な図			課題演習が中心の回。キーポイントの説明を図示したり、実際に解いて見せることで、理解を深めたり、行き詰まりを防いでいた。	学習の要点に対して適切な課題の構成。	ただ演習をやらせるだけでなく、キーポイントの説明を授業の半分かくらいの時間は行っていた。	演習中の見回り、演習課題の回答を提出させる。		
物質	2C	有機化学	5月17日(金)	1	ポイントが抑えられて理解しやすい板書であった。	一つ一つ丁寧に説明していた。	重要な式の復習から入っていた。	質問は随時受け付け、説明も今後覚えてほしいところも話しながらされていた。	復習しやすいように板書プリントを配布していた。	今回は試験に向けて演習が多かった。	昨年度の基礎的な問題を学生に順番に答えさせていた。	学生同士で相談し、議論し合える環境を作っていること。	
物質	3C	物理化学Ⅰ	5月16日(木)	2	プロジェクターを使用していてわかりやすい	ゆっくりと明瞭である		学生が板書にとられる時間がなく効率的である			スライドが変わるたびに学生に理解しているか確認している。		
物質	4C	材料工学実験Ⅰ	5月14日(火)	3	・学生の発表スライドを細かく確認していた。	・十分な声量で話されていた。		・学生との信頼関係が十分確立していると感じ取れた。			・学生を交えてその場で質疑応答を行い、不明瞭な学生には指導をしていた。	中間発表であったことから、時間をかけて細やかに指摘を行っていた。	昨年まで所属していた大学の授業では考えられないほどの盛んな学生参加であった。
物質	5C	物理化学Ⅲ	5月15日(水)	1	教室の最後端でも十分に判読できる板書文字サイズだった。	教室の最後端でも十分に聞き取れる声量、聞き取りやすいスピードと落ち着いた話し方だった。		自作のプリントを用いて説明されていた。					必修科目としては欠席者数が多いと感じた。
物質	3C	化学工学Ⅰ	5月13日(月)	1	丁寧に板書で、学生が確認しやすい。			学生たちの反応をよく見ていた。					
物質	F2	専門基礎Ⅰ	5月17日(金)	2	スライドがわかりやすく要点が理解しやすいと感じた	聞きやすく、スピードも適切で、理解できたか時折確認を入れているのが印象的だった	小テスト返却と前回の授業の復習から丁寧に理解度を確かめながら授業が進められていた	小テスト返却→前回授業の復習→説明(具体例・まとめ)→問題演習まで見学した。説明のみならず、理解度の定着や確認を丁寧にしている様子だった	小テスト、教科書、スライドなどを使用していた	演習や小テストを丁寧に時間をとって行っているのが印象的であった	小テストで理解度を確認するのはもちろん、小テストの平均点や結果の分析を学生と共有し、学生の学習意欲を高めようとする工夫されているのが印象的であった。	学生の理解度を高めるために、スライドや小テスト、叱咤、丁寧に説明などきめ細かい配慮で習熟度を少しでも高めようとする意図や熱意が素晴らしかった	
環境	1B	専門基礎Ⅲ	5月17日(金)	1	・プロジェクタの字がきれいで見やすい。	・声の大きさ、スピードとも聞き取りやすい。					・座席まで行き、状況を確認していた。		
環境都市	4B	コンクリート構造学Ⅰ	5月14日(火)	2	スライドが見えやすかった。			段階を細かく分けて説明していた。					
環境都市	2B	測量学	5月17日(金)	1	・板書の図がきれい。みやすい。	・板書のはやさを調整して、学生にわかりやすくしていた			プリントの問題が、実際に資格試験で出題されている問題で、それに取り組めているのがよかった			測量学の授業は初めて受けたが、とても面白かった	
環境都市	1ES	工学実験Ⅰ	5月16日(木)	3	写真を大型テレビに映して見せていた。	丁度良い。		実物を見せていた。	先行研究(論文)を与えて、予習を促していた。		論文の熟読を繰り返して伝えていた。	起業への誘いもあり、学生が意欲的になる仕組みがあった。	
環境都市	F3	専門基礎Ⅲ	5月16日(木)	3	プロジェクタで要点や図を示し、板書も併用するスタイルで授業をされていた。黒板の下1/4程度は使わないため見やすいと感じた。	教室後方からでも聞き取れる大きさとスピードで話をされていた。	授業の冒頭、吉田先生より現場見学に関する概要説明があった。	充分にノートをとる時間を設けていた。黒板は半分に分けて使用し、右側を書いた後、左半分を消しても良いかを学生に確認されていた。				全員、しっかりとノートをとっていた。	
環境都市	3B	建設材料学Ⅱ	5月14日(火)	2	パワポスライドを用いた授業。学生はノートに転記。動画を見せて理解度を上げている。	学生のスライド転記を確認した後、ゆっくり大きな声で詳しく説明している。	授業開始時に出欠確認、前回までの授業の振り返り、本日の授業の進め方を説明している。		次週は小テスト。授業の後半は小テストのための学習時間。	スライドを転記する時間をしっかり確保している。		授業開始時に資格試験やTOEIC試験に挑戦する動機付けについて話をしている。	
環境都市	1B	専門基礎Ⅱ	5月17日(金)	2	板書のスペースに余裕があり、ノートが作りやすいと感じた。文字の大きさも後方からでも読める大きさだった。	後方でも聞き取りやすく、話のスピードもゆっくりであった。	はじめに前回までの内容を口頭で復習しており、授業の繋がりがわかりやすいと感じた。	配布プリントがあり、要点がわかりやすい授業設計になっていた。	配布プリントを埋めることでノートになるようになっていた。補足の部分はノートに書くという進め方で、後から見返した時にわかりやすいものと感じた。		その都度、学生の理解を確認していた。質問を投げかける場面もあり、学生も真剣に取り組んでいる印象をもった。		

令和6年度(前期)公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
					板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
環境都市	3B	応用測量学	5月17日(金)	3	板書の字が見やすく、図も丁寧であった。	聞き取りやすく、スピードも適切であった。					式の立て方について必要に応じて詳しく説明していた	ノートを取るスピード(ついてこれているか)について定期的に確認していた	
環境都市	4B	環境都市工学実験実習Ⅲ	5月13日(月)	1	・実験手順を動画でまとめ、プロジェクタで提示していた。	・明確な発声で聞き取りやすかった。	・週末の出来事を導入に活用していた。	・実習と演習のバランスが適切であった。	・実験手順をまとめたプリント事前にアップロードしていた。	・実習と演習のバランスが適切であった。	・授業の最後にレポートを与えて提出させていた。		

令和6年度(後期)公開授業週間「FDレポート」

※ 授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	■ 参 考 に な っ た 点								■その他
					板書やプロジェクタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	
一般(人文)	3M	国語Ⅲ	12月18日(水)	3		声の大きさ、スピードとも聞きやすい		資料に沿って読解を行う講義形式	漢字の小テスト教材の資料		問い立てた後、個人指名で答えさせ、理解度を確認する		ユーモアを交えた関りで学びやすい環境づくりをしていた 机間巡視をし、学生の様子を見て必要に応じて声をかけていた
一般(人文)	F5	英語Ⅰ	12月19日(木)	2	シンプルかつ見やすいスライドを用いて授業を行っていた	声の大きさ、スピードを一定に保っていた		復習、新しい項目の導入、演習	演習用のプリント	確認10分 文法導入5分 演習15分	個人指名で確認し、適宜FBしていた		学生からの質問に丁寧に回答していた 騒々しい学生の中、黙々とプリントに取り組む学生たちが印象的だった
一般(人文)	F4	国語	12月20日(金)	3	プロジェクトにより写真などの資料を映すことで学生の理解を深めていた	声を張られており、良く通っていた		学生間による意見交換など、アクティブラーニングを積極的に取り入れていた	古文書の写真などを交えた資料を作られており、学生の理解を深めていた		その場で学生の意見や回答を共有させ、学生含めた全員で理解度を確認していた		
一般(人文)	2M	英語Ⅱ	12月20日(金)	4		聞き取りやすい声だった。クラス全体をよく見た上で必要に応じて個別対応をされるなど丁寧な対応をされていた。		今回はオンライン英会話の授業が行われていた。学生1人1人が対話相手と英語で話し特定のテーマについて25分の英会話を行っていた。	英会話用のプリント	会話中に聞き取った内容をプリントに記入し、まとめていた。導入20分、英会話25分、残り時間がまとめという配分であった。	英語で聞き取った内容をプリントに記入した。		普段の座学で学んだ知識を、演習形式の英会話の授業で実践し、学生は、言語・非言語コミュニケーションともに学ぶ機会が与えられていた。
一般(人文)	4C	国語表現	12月17日(火)	2	・今回はプレゼンを実施したため、板書はなかった。	・明るくハキハキ話されていた。	・一人一人名前を呼んで出席を取っていた。ざわついていた教室がいつの間にか静かになっていった。	・学生一人一人プレゼンし聴いている学生にはコメントを書かせる。最後に教員が講評。	・プレゼンタイトルをまとめたものの、コメント記入欄付き。欄が小さいので、学生が短時間で書きやすいと思った。	・各プレゼンに対するコメントを書く時間は1分程度。		・タブレットでプレゼンの様子を記録。	
一般(人文)	2M	英語Ⅱ	12/20(金)	4	・活動で使用する英語フレーズをまとめて板書していた。				・ネイティブ講師と話すためのトピックを学生に準備させた上で活動に臨ませていた。		事前・事後レポートを行い、活動の準備・振り返りをさせていた。		オンライン英会話を導入した授業について見学し、その成果や方法について議論する機会になった。
一般(人文)	5M	英語Ⅴ	12月12日(金)	1	・最初の板書で講義シラバスをまとめていた。	・学生に英語発話の機会を多く与えている。	・授業の最初で講義の学習内容について板書で説明していた(前述)。	・タスクを積極的に導入していた。	・世界的に著名な新刊テキスト及びTOEIC®対策テキストに加えて自主作成教材も使用していた。	・学生の反応を丁寧に確認していた。英語質問の繰り返しが良い。	・平易な英語を繰り返し笑顔で使っていた。	・総合的に適切なレヴェルの講義。	・特になし。
一般(自然)	F5	基礎解析A	12月20日(金)	3	黒板を用いず、ipadの画面をプロジェクタで投影していた。その場で画面に描画し、説明していた。	ちょうどよいと思います。	前回学習した内容の最後を確認した上で、導入していた。	プリントを併用し、演習の時間も取りながら、進めていた。学生が手を動かしながら学習しており、大変よいと思います。					
一般(自然)	F5	基礎解析A	12月17日(火)	2	プロジェクタを使用していた。よく準備されている。	ゆっくり、情報を厳選している。			配布プリントに記入する形式		適宜学生の反応を見ていた		F5教室の設備が古く、教室も狭いため、環境が良くない。窮屈に感じた。
一般(自然)	F2	化学Ⅰ	12月20日(金)	1	プリントに対応したPPT、重要なところは板書とわかりやすく活用されていた。	身近な例を挙げながら専門用語を説明していてわかりやすい。	・提出物の再確認を行っていた。 ・授業全体の流れの説明から入り、本時の目標が示されていた。	PPT、板書と、それに対応したプリントで、わかりやすく進行されていた。	空欄補充式のプリントで理解しやすい。		・課題を与えて提出させている。 ・指名して復習事項を確認していた。		
一般(自然)	2M	解析Ⅱ	12月19日(木)	3	・円をコンパスを使って書くなど見やすい作図がされていた。	・ゆっくりと説明し聞き取りやすい。		・くじでランダムに学生を当てて質問しており、緊張感を維持する運営がされていた。	授業内に関するプリントが事前に配布されていて、すぐに内容に入ってた。				
一般(自然)	F3	物理基礎	12月17日(火)	3	・iPadを使って講義していたが、電子ノートを書きつつ進めていて、見やすかった。	・教室の後ろまで届く声の大きかった。	・前回までの授業と、これからの授業の軽い説明があり、何をするのか分かりやすい。	・低学年は教科書をまず読めるようになってほしいので、教科書を読みながら進めていて良かった。			・学生に回答を促しており、理解度の把握に努めていた。		
一般(自然)	F3	物理基礎	12月17日(火)	3	・最初からプロジェクターではなく、対面で説明した後、プロジェクターを用いていた。	・十分な声量で話されていた。常に学生のノート書きのスピードを気にしていた。	・出席は読み上げ、今回の目的を説明されていた。	・教科書を丁寧に音読・説明していた。 ・身振り手振りを多く使われていた。	・レポートが2週に1度あるようだ。	・前半で説明し、後半で教科書の問題を解いていた。	・学生に適宜答えを求めている。	・変化量などの難しい言葉も適宜加えられていた。	・将来に向けて、事象の捉え方なども説明していた。 ・AirPlayをうまく使って効果的な授業と見受けられた。

授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	板書やプロジェク・O HPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード 等)	授業の導入 (出席の取り方、前回 の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配 分	理解度の確認	その他	■その他
一般(自然)	3C	保健体育 Ⅲ	12月20日(金)	3		声を張っていて聞きやすかった。	準備運動をしっ かりしていて怪 我に対するリス クを低減してい た。	学生の主体性 がでており、自 律して授業を進 めていた。			4年生に上がる までに自分で時 間配分のコント ロールや自己 管理をできるよ うに教育されて いた。		座学以外に、表では重要視されにくい科目でも、1年生から一貫して靴の揃え方から、自己管理、礼儀を教育されていて、学生が勝手に育っているのではなく、様々な教科・先生方のご尽力があって大人になると改めて感じた。
一般(自然)	3Ei	応用物理 Ⅰ	12月17日(火)	2	板書は、大き目なきれいな字でとても見やすい。無駄なことは、書かれていないため、分かりやすい。	落ち着いて、ゆっくり話されているため、ノートをとりながらでも分かりやすい。	大まかに何を学ぶかを、最初に簡単に説明されていて良い。						
一般(自然)	F2	化学Ⅰ	12月20日(金)	1	・スライドがわかりやすい ・板書もまとまっていて良い	・声を張っていた。	・課題の確認からおこなっていた				・授業中にも適宜発問をし、学生を指名して答えさせていた	・自分の専門とは違う分野であるが、勉強になりとても面白かった	
一般(自然)	3Ei	数理統計学	12月17日(火)	1	事前にデータを配布していた			エクセルを使って数理統計を実践する授業。数理AIデータサイエンス入門の参考として見学した	課題プリント／課題のためのエクセルデータ(前配布)		課題を提出させ、確認していた		
機械	4M	工業力学	12月17日(火)	3		・大きな声で分かりやすく話していた					・学生に専門用語の意味などを答えさせるなど、授業中に理解度を確認されていた。		
機械	3M	流れ学Ⅰ	12月20日(金)	3	・課題の解答例をプロジェクトを使用し丁寧に説明されていた。	・声が明瞭で非常にきやすかった。	・導入時、課題で間違いが多かった箇所を丁寧に説明されていた。				・課題で間違いが多かった箇所を丁寧に説明されていた。		
機械	3M	機工実習 2	12月19日(木)	1	取り扱う機械の説明をパワーポイントで行っていたため、視覚的にも理解を助けていた。	丁寧にわかりやすい。	本日取り扱う内容、目的が明確だった。	説明の時間と実習の時間のメリハリがある。		ちょうどよい。	ホワイトボードを活用し学生にこれから行おうとしていることを可視化させることで理解を深めさせていた。		
電気電子	3E	電子回路 Ⅰ	12月20日(金)	3	・回路図や文字が大きく後ろの席からも見やすい。 ・黒板に線を引き分割して用いているので見やすい。 ・黒板の下側を使わないことで後ろの席からも見やすい。 ・回路に流れる電流を、直流と交流で色を変え、一目で理解できるよう工夫している。	・板書のノートが間に合っているかを常に見ながら授業を進めている。	・前回授業に触れてから授業を開始している。	・板書による説明が中心であるが、ポイントとなる部分で演習を行うことで理解度の把握に努めている。		時間外学習が行えるようオンラインでの提出方式を取り入れている。	・適宜課題を与え、学生自身に理解度を自己点検させるとともに、提出させて理解度の把握に努めている。		
電気電子	5E	電気情報工学	12月19日(木)	2	板書が丁寧に 見やすい	落ち着いた話し方で聞きやすい		今回は演習主体の授業	プリントが配布されている	今回は課題が中心	学生の取り組み状況を見て、適宜、解説を加えていた。	学生は熱心に取り組んでいた	
電気電子	3E	電子創造工学	12月19日(木)	1		実験室全体に聞こえる声であった		学生達が主体的に取り組めるように進めている			演習の進捗を確認しながら実施していた。		
電子情報	2Ei	電子情報工学実験 Ⅰ	12月20日(金)	3	丁寧に板書をしてまだ授業で習っていない交流の概略説明をしていた	実験で少人数であったが、皆に通る声であった					実験している学生を巡回し、コミュニケーションとりながら進めていた		
電子情報	2Ei	論理回路	12月24日(火)	1	プロジェクトと板書を併用していた。			1年次の復習や、これから学んでいくことを話してから進めていた。			適宜学生に発問しながら進めていた。		
電子情報	3Ei	電子実習 2	12月23日(月)	1	授業の目標などホワイトボードを使いわかりやすくまとめた。	わかりやすい。ユーモアを交えていた。	授業の目的を端的に提示していた。	理論の説明だけでなく具体物を用いて説明していた。		ちょうどよい。	各グループごとにホワイトボードを用いてアウトプットさせることで理解をできるようにさせていた。		

授業担当者の 学科(教室)	※ クラス名	※ 科目名	※ 月日	※ 限目	板書やプロジェタ・OHPの使い方	教員の説明 (声の大きさ・スピード等)	授業の導入 (出席の取り方、前回の復習等)	授業の運営方法	教材や配布物 (小テスト・プリント)	課題や演習の時間配分	理解度の確認	その他	■その他
電子情報	2EI	プログラミング基礎	12月17日(火)	4	Teamsで画面共有をしていた				資料を共有フォルダで公開しているので、学生が手元でみられる	資料の中のソースコードは画像になっているので、学生がタイピングするよう仕向けている			
物質	3C	無機化学Ⅰ	12月20日(金)	4	大きく丁寧に、後ろからでも見やすい	大きな声でテンポよく歯切れがよい	前回の講義の復習に始まり、学生が新しい単元に入る準備ができる	口頭説明と板書のバランスがちょうどよい。			演習問題を解かせることで理解度を確認している。		
物質	4C	機器分析	12月20日(金)	2	配布プリントへ記入する形を探っていた	ゆっくりと語りかける感じ		詳細な説明をしながら空欄を埋めさせる	教科書の重要語句等を抜いたプリントを配布				
物質	3C	無機化学Ⅱ	12月20日(金)	3		清涼は適切であった	前回の復習を希望者に黒板に出て回答させていた。					遅刻者がいたのが残念であった	
環境都市	2B	環境都市工学実験実習Ⅰ	12月20日(金)	2	情報処理演習室での演習。	適宜、声掛けしていた。		学生が主体的に動いていた。		演習でPPT作成中。			
環境都市	F1	専門基礎Ⅲ	12月20日(金)	2	演習問題のExcelシートをプロジェクタに投影されていた。	教室(第二演習室)の後方でも十分に聞き取れる大きさと話をされていた。		本授業では、Excelの使い方に関する課題に取り組ませていた。	学生に気温・湿度・日照等のデータシート(365日分)を配布し、関数やグラフの描き方を学ばせていた。		机間巡視をさせてもらい、学生に難易度を確認したところ、難しくできないということはないとの返答があった。		専門基礎Ⅱの演習では、動き回る学生が多いが、この授業では少なかった。Teamsの2段階認証でログインできない学生がいた。1年生で慣れていない学生への対応を考慮するとフォローする教員がいると良いと感じた。
環境都市	2B	測量	12月16日(月)	1	板書の字や図が丁寧に見やすい	後ろの席でもしっかり聞きとれる声の大きさとスピード	導入で全会の授業の振り返り	例題プリントを配布し、その解説を行いながら授業を進行	配布した例題プリントを各自が授業内で計算			板書での青チョークは見えにくい	
環境都市	1B	専門基礎Ⅱ	12月18日(水)	3	・計算問題で重要な概念を板書で明確に図示していた。	・明確な発声で聞き取りやすかった。	・前回の復習を導入に活用していた。	・講義と演習のバランスが適切であった。	・資格試験の例題をまとめたプリントを事前に配付していた。	・講義と演習のバランスが適切であった。	・授業の最後に課題を与えて理解を深めさせていた。		

FD 研修会

令和6年度FD研修会（教務システム運用説明会）

日 時：令和6年11月8日（金） 17：20～18：05 大講義室（教員会議終了後）

参加者：教職員52名

講 師：米田創造教育開発センター長

内 容：最初にマニュアルに沿って出欠確認、特別時間割の作成、学生カルテ機能、成績入力機能の説明を行い、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・カルテ機能に決まったフォーマットはないので、記入者を明記してほしい。
- ・カルテは複数が入力できることから誤って記入内容を消してしまう可能性がある。
- ・紙の指導要録は廃止する方向で進めている。（時期は未定）
- ・保護者に見せることを考えるとPDF化が望ましい。
- ・紙の出席簿は今年度まで。現在の担任サインをどうするかは検討。
- ・将来的にスマホでの出欠機能を検討してはどうか。

終了後アンケートを実施した。

本日の研修内容は理解できましたか

学生カルテ機能（学習支援状況・教科所見）を今後活用する予定はありますか。

前の質問で「いいえ」と回答した方におききます。どのような点が問題だと思いますか。

システム全般に関して要望事項があれば記載してください。

その他研修全体を通してお気づきの点があればご記入ください。

<FD 研修会開催通知>

令和 6年10月24日

教職員 各位

教 務 主 事
創造教育開発センター長

令和6年度FD研修会（教務システム運用説明会）の開催について

このことについて下記のとおり開催しますので参加願います。

記

内 容：教務システム新機能の紹介他、運用上の注意点について

今年度から本稼働している教務システムの新機能として、学生毎に学習支援状況や教科所見を入力・閲覧できるようになりましたのでご紹介します。

あわせて今年度前期中間試験・期末試験で生じた課題（特別時間割作成、欠課時数入力）をあらためて確認することで、学年末試験に向けてのシステムの理解を深めていただきます。

可能な範囲で Wifi 接続可能な PC をご持参ください。(10～15 分程度)

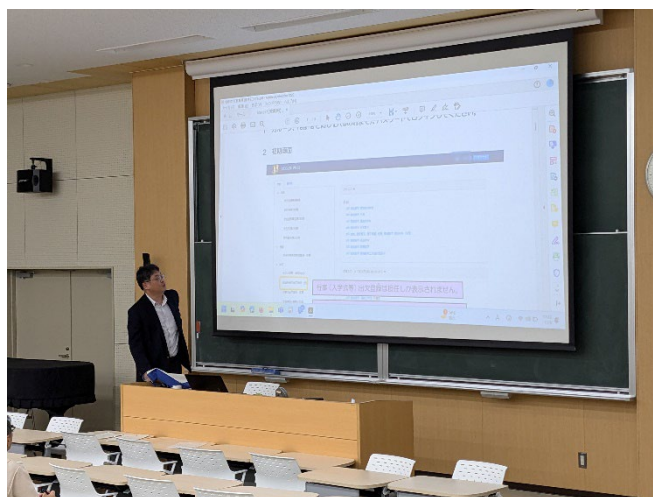
日 時：令和 6 年 11 月 8 日（金）教員会議終了後すぐに関催します。

開催場所：大講義室

対象者：教職員

説明内容：① 学習支援状況登録・閲覧について
② 特別時間割の作成について（マニュアル 2 ページ、7 ページ）
③ 成績入力時の注意点及び便利な機能について（3 ページ）
④ 質疑応答・改修要望について

その他：マニュアルをご準備ください。
教職員 Teams → 教務システム

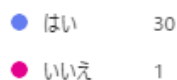


終了後アンケート（回答者 32 名）

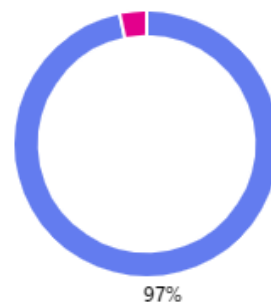
1. 本日の研修内容は理解できましたか



2. 学生カルテ機能（学習支援状況・教科所見）を今後活用する予定はありますか。



カルテ運用の実態を見極めてからにしたい



【システム全般に関して要望事項があれば記載してください。】

○隔週科目で、誤って授業の無い週の出欠を記入してしまった場合に、取り消す機能がないので付加して欲しい

○適切な様式での PDF ファイル作成を可能にして頂きたい

○運用してみないとわからない点もあると思うので、問題収集する方法を公知したほうが良いと思う。

○全学生の顔写真を見られるようにして欲しい。

○将来的に、成績や出欠状況は学生自身でアクセスできるようになるとよい。これに加えて、部活動やボランティア活動、年間の振り返りと次年度の計画など、学生自身が入力する部分が完備されれば、達成度評価シートの役割やポートフォリオとしても使えるようになるかもしれない。

○学生情報のところで、他の教員が入力した内容を消してしまうのは懸念があります。

○非常勤講師連絡担当教員業務

○出席の登録が手間と感ずます。スマートフォンから入力する科目を見つけるまでに到達するまでに何ステップか必要なので、ストレスを感じる。簡便にしてもらえると入力しやすい。もしくは、授業開始時間に自動でメールを送って、メール内の URL をクリックすると出席簿の入力画面が出るようにしてもらえるとありがたい。スマホで見ると、出席表だけがスクロールするのだが、かえって扱いづらい。フォームのような入力が望ましい。

○要望というより願望ですが、出欠登録されていない日について、ある期限を過ぎると注意喚起してもらえるような設定があると嬉しいです。

- 出席などの入力が無い場合にリマインドメールなどが自動送信される機能が付加できると良いなと思いました
- 現時点では特にはないです。多機能になりすぎると使いこなすことが大変になるため、個人的には今の機能でも十分です。
- 成績エビデンスとのリンクができるとより使いやすいなと思います。
- リマインダー機能があるとよいと思いました
- 学生指導要領に関しては担任及び副担任のみ編集/確認できるのは問題ないと思うが、従来より担任が指導要領の記入をしてきたので、編集できるのは担任のみの方が良いかも知れない。
- 学籍情報検索条件に関して、これはまだ設定が完璧？ではないのかも知れないが、クラスからも検索できるようにしてほしい。現状、2年電子情報の副担任を持っているため、クラスから2年のみは検索できる。科目担当からは1年から5年までで受け持っている電子情報の学生の検索はできるが、例えば、クラスの項目から、「4年生」「電子情報工学科」として科目担当しているクラスの検索ができると良い。科目担当も、できればその科目を選択して、その中から学生候補が出てくると良いと思った。”
- 教科所見は、成績入力の欄にあっても良いのではないかと思います。
- 使いやすいマニュアルを整備する必要があるかと思います。
- 本科の担任補佐が学習支援状況を記載できる権限を持つのであれば、専攻科の各学科専攻科委員も学習支援状況を記載できる権限を持たせた方が良いと考えます。専攻主任が本科の学級担任としての位置づけということも理解できますが、他の系の学生についてはなかなか記載が難しいと思います。
- 紙の出席簿を無くすためには、サーバーのバッテリー駆動化、回線の冗長化、教員へバッテリーがしっかりしている端末を配布等をして、緊急避難時の点呼に使用できるようにする等、何らかの方策が必要になるかと思います。それなりのシステムを構築しないと、現金と同じで、電源喪失時は紙ベースが一番になるかと思います
- 検索機能にワイルドカードは使えるのでしょうか
- 3年次終了要件や卒業単位数や専攻科修了要件が確認できるシステムにしてくれている学生への説明が楽になる。

【その他研修全体を通してお気づきの点があればご記入ください。】

- 講師の御講演は要点のみをおさえて具体的で理解しやすく無駄の無い良質のものであった。御準備を入念になされたものと拝察する。そのため、超過勤務時間にもかかわらず質疑応答や議論が盛んに行われた。従って研修は非常に有意義であったと判断できる。
- 説明会でも指摘がありましたが、教科担任全員が所見を入力できるという点について。操作ミスもそうですが、情報が煩雑になりそうな気がします。どのような情報をどのように載せるかについては、ある程度共通認識があるといいように感じました。
- 自由記述部分に要配慮個人情報が入る場合があればデータの管理方法についての確認が必要かと思いました。または要配慮個人情報を自由記述部分に入力しないように促す仕組みがあるとよいと思いました。
- たいへん便利になって、助かります。
- 今後もシステムの更新をされていくと思うので、定期的に研修を開催頂けたらと思います。
- 平時の教学という意味では、何ら問題はないかと思います。でも、学生の所在確認については、災害時等の緊急時も想定しておく必要があるかと思いました。

令和6年度FD研修会（教学IRに関する講演会）

日 時：令和6年11月20日（水） 16：40～17：40 大講義室

参加者：教職員 41名（校長含む）

講 師：福井大学アドミッションセンター教授 大久保 貢 先生

内 容：「学生情報データの分析方法及び探究活動を通しての入試広報戦略について」と題して入試成績、留年者等における学業成績との相関関係について説明の後、関係者等と開発したループリックの解説があり、特に入学前に探究活動を行っていることの重要性を強調した講演を行った。

<FD 研修会開催通知>

件名：【11/20(水) 16:40】 教学IRに関する講演会の開催について

教員 各位

教務主事（教学IR推進室長）
創造教育開発センター長

本校では、令和5年度に教育の質保証のための継続的なマネジメントに係る意思決定を行う機関として教学マネジメント室、マネジメント室へ情報を提供する機関として教学IR推進室を設置し、教学IR推進室では成績に関する様々な分析を行ってきたところです。

しかし、本校では教学IR活動のために必要不可欠な成績データをはじめとする学生情報データ収集及び分析方法についての知見が不足しており、十分に教育の改善に活かしきれていないのが現状です。

今回、近隣高等教育機関でデータ分析等の実績をもつ専門家の講演を通して、本校全教員が学生情報データの取扱いについての正しい知識と分析方法を学び、分析を通して今後の入試広報戦略にどのように活用できるかまでの問題意識を共有するため、下記のとおり、講演会を開催することとなりました。

全教員を対象として開催しますので、ご多忙とは存じますがなるべく多くの先生方の参加をお願いいたします。

日時・場所：令和6年11月20日（水） 15:30～16:30 大講義室
→16:40～17:40

講演者：福井大学アドミッションセンター教授 大久保 貢 先生

講演タイトル

：「学生情報データの分析方法及び探究活動を通しての入試広報戦略について」

その他：終了後、理解度及び満足度等に関するアンケートを実施しますので
ご協力お願いします。終了後アンケート（回答者 32 名）



終了後アンケート（回答者 26 名）



あまり参考にならなかった（☆2つ以下）の場合、どのような内容の講演を希望しますか。

- 講演の内容が、研修会の目的とは少し離れていたように思いました。学校で扱う学生情報のデータの分析の観点、分析の方法、結果の解釈などの内容にして頂きたかった。
- データの分析の話を知ることができると思っていたが、入試のシステムの話がほとんどでそうではなかった。

全体を通してご意見があればおきかせください。

- 講師の大久保先生の語りは丁寧で内容は非常に良くまとまっており、貴重な具体的事例を知る良い機会となった。従って、今回のFD講演会はとても有意義であった、と判断できる。
- データを解析する上での「つぼ」のようなものがあれば知りたいかった。
- 生まれ持った才能や能力が探究学習によるモチベーションでなんとかなるならば、数学と物理の先生は幸せなれると思います。
- 数学IRに関する講演会としてではなく、入試倍率向上の糸口は見えて来る内容だったと思うので有意義な内容であったと感じています。
- 少し残念な講演会でした。

- 結局、とったデータをどう解析してどうフィードバックさせればよいのかがよくわからなかった。
- 他大学や他高専の様々な実践事例を、関連業務を担当していない立場の教員にも共有していただける機会というのは意外と貴重だと思いました。その意味で今回の講演会は私を含め、様々な先生方に良い機会になったのではないかと思います。
- データの分析について、ループリックの作成と実際の評価例についてもっと聞きたかった。
- 教員の出席率が低いように思う。
- すでに本校でも行っているような内容も含んでいたと思うが、業務量の増大に見合った効果が得られ（てい）るのかどうか、の検証が必要と思う
- 流行っている手法、やるのが良さそう、といった程度のことで、業務を増やすことは疑問
- 本来業務（教育、研究）を、余裕をもって行える環境は担保されるべき
- 今回の講演者は、そのような業務を担う専任部署のスタッフのようだが入試をただの選考と見なすのではなく、生徒の成長機会と捉える考え方がとても参考になりました。
- データサイエンスが情報処理だけではなく、情報の組み立て方も視野に入ることが分かった。
- 嶺南地区の選抜を実施するに至った経緯、そこでのデータ活用事例を教えて欲しかった。
- 本校のジュニアドクター育成塾の取り組みは、高大連携と同じような取り組みであると認識した。
- 高大連携に関してはとても興味深い内容であったが、データ分析の部分をもっと聞きたかった。

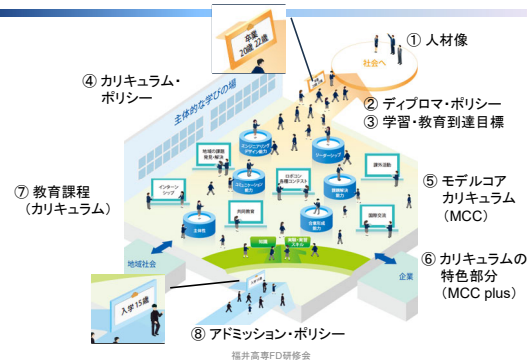
福井高専FD研修会

福井高専FD研修会

2024/12/18

(本研修会のPP資料は、高専機構本部の上原信知先生の作成された資料を元に作成しています)

学生が主体となった高専の学びの場



2024/12/18

福井高専FD研修会

2

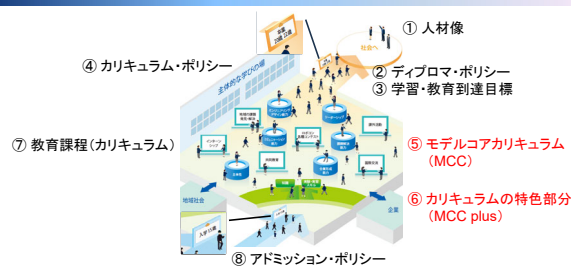
モデルコアカリキュラムの概要

福井高専FD研修会

2024/12/18

(本研修会のPP資料は、高専機構本部の上原信知先生の作成された資料を元に作成しています)

ターゲット (モデルコアカリキュラム)



MCCの概要

2024/12/18

福井高専FD研修会

4

⑤ モデルコアカリキュラム (MCC)

- モデルコアカリキュラム (MCC)
高専卒業生が最低限身につけている、知識、スキル、人間力をレベルも含めまとめたもの

社会情勢の変化に対応するため、5年ごとに改訂

2024年4月入学生向け教育課程から新MCC適用



⑤ モデルコアカリキュラム (MCC)

2024/12/18

福井高専FD研修会

5

⑥ カリキュラムの特色 (MCC plus)

- 教育課程 (カリキュラム) の編成
「MCC (コア)」 + 「特色」



⑥ カリキュラムの特色部分 (MCC plus)

- 特色とは？
地域産業の特性 (農工連携・医工連携 等)
次世代基盤技術

- 次世代基盤技術分野における到達目標 (MCC plus)
産業界と連携し整理
AI・数理データサイエンス
サイバーセキュリティ、ロボット、IoT

2024/12/18

福井高専FD研修会

6

モデルコアカリキュラムは何のためにあるか？

高専卒業生の位置付けや能力がなかなか理解されない

- 「高専で学ぶ学生が、何ができるようになるのか」
 - 高専のステークホルダーが高専教育の特長、強みを確認、共有
 - 高専教育の社会的理解を深め、有効性の認知向上
- 教育の質を保証するため
 - 全ての国立高専を卒業した学生がどんな能力を身につけているか示す

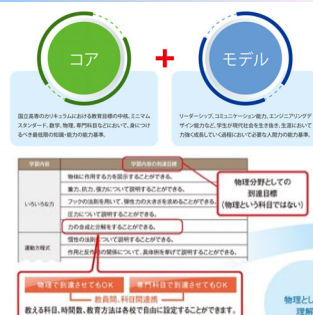
2024/12/18

福井高専FD研修会

7

モデルコアカリキュラムは何を定めているのか？

- MCC（コア）
卒業時に身につけている
知識や実験スキル
- MCC（モデル）
創造性やデザイン能力など、
専門分野を超えた幅広い
資質・能力
- 到達の「レベル」



2024/12/18

福井高専FD研修会

8

MCC（コア）の到達レベル

知識やスキルの成長

- 知識・記憶レベル（1）
– 到達目標を認識している
（思い出せる、答えられる）



2024/12/18

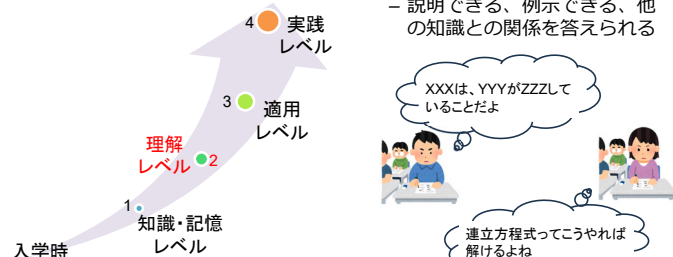
福井高専FD研修会

9

MCC（コア）の到達レベル

知識やスキルの成長

- 理解レベル（2）
– 説明できる、例示できる、他の知識との関係を答えられる



2024/12/18

福井高専FD研修会

10

MCC（コア）の到達レベル

知識やスキルの成長

- 適用レベル（3）
– 具体的事例に適用できる、他の領域で知識等を活用できる



2024/12/18

福井高専FD研修会

11

MCC（コア）の到達レベル

知識やスキルの成長

- 実践レベル（レベル4）
– 様々な知識を用いて事例を分析し、解決案を検討できる

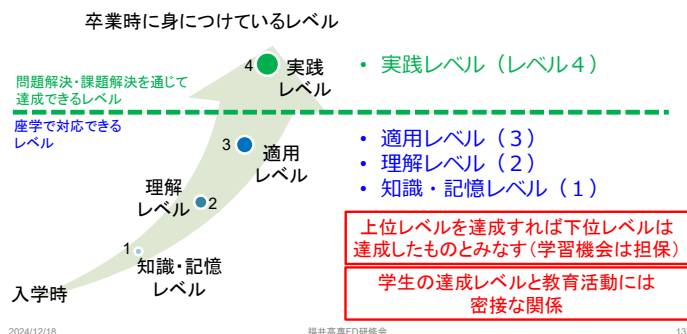


2024/12/18

福井高専FD研修会

12

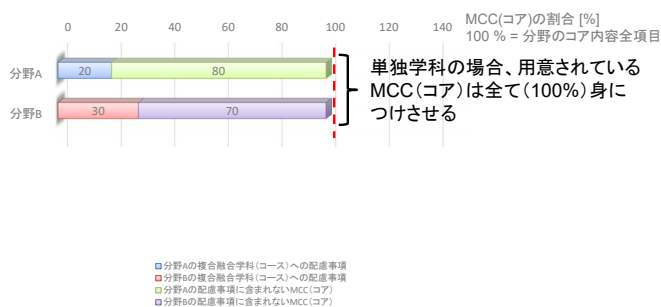
MCC（コア）の到達レベル



MCC（コア）

- ・基礎的能力
 - 数学
 - 自然科学
 - 人文・社会科学
 - 工学基礎
 - ・分野別専門能力
 - 分野別の専門工学
 - 分野別の工学実験・実習能力
- レベル3の達成
例) 専門科目で数学の知識をさせる
- レベル3の達成
例) 専門の知識を用いて、回路動作が計算できる
- レベル4の達成
例) 専門の知識を課題解決にさせる
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 14

単独カリキュラムでのMCC(コア)の取り扱い



MCC（モデル）

- ・高専卒業時に身につけている資質・能力（21世紀型スキルを含む）
 - 基礎的資質・能力
 - ・実践的な学習活動を通じて育成
 - 創造性・デザイン能力
 - ・レベル4に相当する教育活動を通じて育成
 - ・学習機会の保証と学習成果の測定評価が必要
- 基礎的資質・能力
- コミュニケーションスキル
 - チームワークとリーダーシップ
 - 情報収集・活用・発信力
 - 思考力
 - 課題発見力・問題解決力
 - 自己理解
 - 主体性
 - 自己管理と責任ある行動
 - 倫理観
 - キャリアデザイン
 - 継続的な学習と学びの目的
- 創造性・デザイン能力
- 創造性
 - エンジニアリングデザイン能力
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 16

基礎的資質能力

- ・社会人としての基礎力（21世紀型スキル）
 - 例えば
 - ・「コミュニケーション力」
 - ・「チームワーク」
 - ・「リーダーシップ」
 - 様々な活動を通じて「評価」する必要
 - ・その時点で「できていないからダメ」ではない
 - ・学生自身が、今の状況を理解して、次に何をすれば良いか促す必要がある
 - ・教員がこの活動をするにあたり「どんな行動をしてほしいか」を提示する必要がある
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 17

創造性・デザイン能力

- ・「創造性」と「エンジニアリングデザイン能力」を育成する教育活動は、専門教科で学んだ知識を「活かし」て「技術で課題を解決する」活動
 - 例) PBL、社会実装教育・・・
 - コンテスト（ロボコン、プロコン・・・）も典型的な活動の一つ
 - ・達成の確認が必要なので、全ての学生が参加できて「評価」できることが重要
 - ・MCC（コア）の内容のレベル4達成との関係
 - 創造性・デザイン能力の達成は、MCC（コア）のレベル4達成と等しい
 - ・MCCの分野（機械系、電気・電子系・・・）として確認
 - ・創造性・デザイン能力の活動で到達目標1行1行を取り扱う必要はない
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 18

MCC(コア)のレベル4 達成

- MCC（コア）の内容のレベル4 達成との関係
 - レベル4：様々な知識を用いて事例を分析し、解決案を検討できる
 - 創造性・デザイン能力の達成はMCC（コア）のレベル4 達成と等しい
 - MCCの分野（機械系、電気・電子系・・・）として確認
 - 創造性・デザイン能力の活動で到達目標1行1行を取り扱う必要はない



2024/12/18

福井高専FD研修会

19

まとめ

- 高専教育にとってのモデルコアカリキュラム（MCC）の位置付けについて説明できる
 - 高専の卒業生が身につけているべき「知識」「スキル」
 - 教育の質を保証するツール
- MCC（コア）、MCC（モデル）、レベルの設定について説明できる
 - MCC（コア）は知識、MCC（モデル）は21世紀型スキルや創造性、デザイン能力など分野を問わず必要なスキル
 - 創造性やデザイン能力の育成を通じて、MCC(コア)の内容を実践レベルに

2024/12/18

福井高専FD研修会

20

学生の達成度評価を考える (カリキュラムレベル・科目レベル)

福井高専FD研修会

2024/12/18

(本研修会のPP資料は、高専機構本部の上原信知先生の作成された資料を元に作成しています)

学生の達成度評価を考える

何のために、どのように評価を行うか、改めて考えてみましょう

– 科目における達成度はどのように設定されるのか？

– なぜ評価するのか？

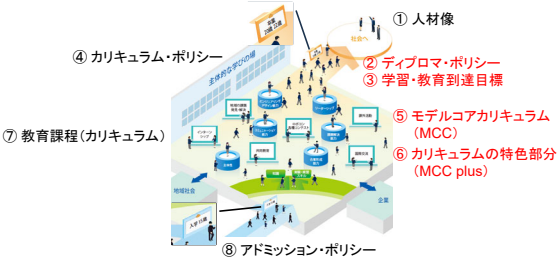
– より良い評価のためにやらないといけないことは何か？

2024/12/18

福井高専FD研修会

22

ターゲット（学生の達成度評価を考える）



学生の達成度評価を考える

2024/12/18

福井高専FD研修会

23

シラバスの記載

- 皆さんのシラバスにはどんな情報が載っていますか？
 - 科目の到達目標
 - 毎週の授業計画
 - 成績評価の配点（？）

- 担当科目で成績をつけるときに、どんな評価をしていますか？

2024/12/18

福井高専FD研修会

24

授業で教員が求められていること

- ✕ 学生に単位を出す
- ✕ できていない学生に赤点をつけることで良い学生を育てる
→これは「結果」でしかない
- 「学生に能力を身につけさせる事」
 - 成績をつけることは「学生を査定すること」ではない

評価の目的

参考資料:「学習評価」中嶋英博編著 玉川大学出版部

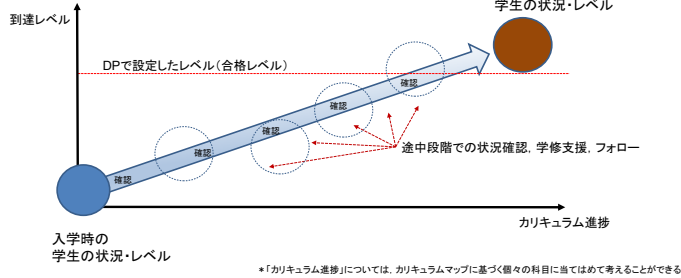
学習評価は何のために

- 到達度の確認
 - 設定された到達目標に対する到達度の確認
- 学習の促進
 - 理解度の状況を学生が自ら確認し学習に取り組む
 - 理解度の状況を教員が点検し、授業方法の改善や学修支援に取り組むことで学習の促進を図る
- 学生支援の資料
 - 学生の生活の状況を知る
 - 奨学金や表彰等の基準
- 社会への説明責任
 - 学習成果の可視化と公表

試験≠評価
試験は到達度の確認の一つの手段
→試験は評価の一つの手段

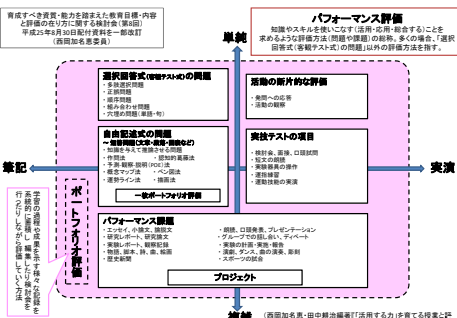
評価について

カリキュラム進捗と評価と到達レベル



評価の方法

参考資料:中教審 初等中等教育分科会 教育課程部会 総則・評価特別部会資料



評価の時期と評価の目的

- 診断的評価
 - 学習前の評価: 既存知識の把握や授業計画設計のため
 - 受講前アンケート
 - 基礎学力テスト、習熟度別クラス編成のためのプレースメントテスト
- 形成的評価
 - 学習中の評価: 学生の理解度や達成度を把握し授業計画の修正や学習改善を促すため
 - 小テスト、中間テスト、中間アンケート
- 総括的評価
 - 学習後の評価: 最終的な学習成果の把握や学生に学習活動全体の振り返りを促すため
 - 期末テスト、最終レポート

成績判定は学修支援の一環であり試験は成績判定のためだけに行うものではない

形成的評価の活用

形成的評価の目的

- (学生) 学習の進捗度の把握
- (学生) 学習内容の理解度の把握
- (学生) 学習目標の到達度の確認
- (学生) 学習改善
- (教員) 授業改善

形成的評価の方法

- ミニッツペーパー
- 短時間の小テスト
- 無記名のアンケート
- 学生の観察
- インタビュー、質問

目的や学生の状況に合わせて手法を選択して継続的に行う



形成的評価の活用

形成的評価の具体的手法

- 授業のポイントの箇条書き
 - 授業の疑問点の書き出し
 - 授業の要約
 - クリッカー等を用いた簡易な選択肢による小テスト
 - 挙手
 - 挙手が苦手な学生への配慮
 - 質問
 - 学習意欲を落とさない為の工夫
 - 小テスト
 - 例えば、学生が問題と模範解答を作成し相互に実施
 - グループワークでの振り返り
 - コンセプトマップの作成
 - 学習記録の作成
 - 学生による自身の学習状況の理解にも有効
 - ポートフォリオ
- ミニッツペーパーなどで授業終了前
←何を書いて欲しいかポイントを明確に示す
- 授業中
- 授業中、授業後
- 形成的評価によって学生の状況を理解し、効果的なフィードバックを行うと学習効果が高まる
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 31

まとめ

何のために、どのように評価を行うか、改めて考えてみましょう

- 科目における達成度はどのように設定されるのか？
 - 達成度はカリキュラム全体での位置付けを踏まえて設定される
 - なぜ評価するのか？
 - 評価は学習の促進と到達状況の確認のため
 - より良い評価のためにやらないといけないことは何か？
 - 学生の成績が悪い場合は授業の内容、方法、評価の方法、レベル設定などを多方面から見直すことが必要となる
 - 見直しのための客観的資料として形成的評価などの様々な評価手法が活用可能
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 32

評価を選択する上で意識すべきこと

- 「信頼性」：評価結果の安定性
 - パフォーマンスが同程度の学生が、同じ結果になるか
 - (例) 採点基準が明確になってますか？ それに対する設問は？
 - 「妥当性」：評価したいものを本当に評価できているか
 - 設定した評価基準、評価方法が到達目標の達成度を測る評価になっているか
 - (例) 正しい計算ができることは、到達目標に対して適切な評価か？
 - 「効率性」：評価の実施にかかる時間的、経済的コスト
 - 無理な実施になっていないか
 - (例) 毎週160人に対して小テストをして採点するのは大変では？
 - 「公平性」：「付随する能力」の影響を踏まえた評価ができていますか？
 - 他の能力の影響をどこまで排除できるか
 - (例) 日本語の読解能力は、到達目標に対する評価になっていますか？
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 33

実験スキルの評価

- 実験実習能力についてもMCCで規定されている
 - 「難しい実験ができること」と「実験能力が高いこと」は違う
 - 学生の実験実習能力の考え方
 - レベル1：教えてもらいながらできる
(穴埋め形式などの実験書で実験を進める)
 - レベル2：実験指導書を読みながらできる
(操作方法が詳しく書かれた実験書で実験を進める)
 - レベル3：与えられたテーマや指示に従って自分でできる
- 2024/12/18 福井高専FD研修会 34

レベルの異なる実験書のイメージ

レベル1

電気電子分野 「オシロスコープ」 Ia.1 2年

図1は、オシロスコープによる正弦波電圧を観測する回路図である。図1aは接続図であり、図1bはその実装図である。

図1a 接続図

図1b 実装図

図1 正弦波の観測

1. 図1に示すように抵抗変換器と交流電子電圧計を接続する。

2. 図1aのオシロスコープと抵抗変換器とオシロスコープを接続する。

3. 抵抗変換器の電圧を出力、出力をオシロスコープの電圧に接続し、観測する。

- 電圧計を「f」に設定する
- 電圧計を「f」に設定する

4. 出力電圧を交流電子電圧計の電圧に「f」に設定する。

5. 交流電圧「f」を観測する。図1bに示すように、オシロスコープを接続し、図1aに出力電圧を接続する。

※ 測定電圧の電圧を考慮しながら、1レベル以上の電圧が観測できるように調整すること。

6. 実験手順「f」の電圧の観測に「f」に接続し、電圧を観測する。

レベル3

電気電子分野 「オシロスコープ」 Ia.3 3年

実験手順：

図1 正弦波の観測

1. 図1に示すように抵抗変換器、交流電子電圧計、オシロスコープを接続する。

2. 抵抗変換器の電圧を出力、出力をオシロスコープの電圧に接続し、観測する。

- 電圧計の機能「f」に設定する
- 電圧計を「f」に設定する
- 出力電圧を「f」に設定する

3. オシロスコープの電圧を観測し、必要な設定条件を確認しない。

学生のスキル達成状況のアセスメント（例）

評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果		評価者	
評価項目		達成状況				評価結果			

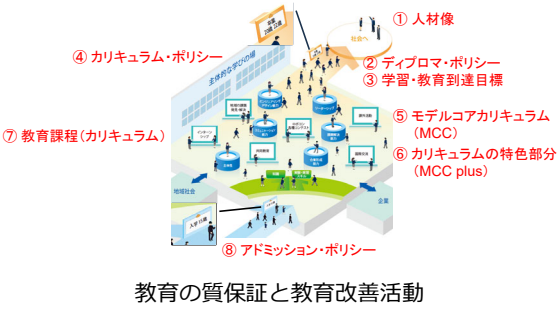
評価基準、評価方法の適切さの確認

- 何を基準に考えるか
 - DPに基づいた位置付けに対して適切かどうか
 - カリキュラム全体設計として設定される到達目標と基準
 - 科目担当者が決めるのではなく、カリキュラムとして決まる
 - 前提科目／後段科目との関係性
 - 科目の到達目標としては、順番に階段を登るように
 - 授業を進める上では、必要に応じて階段を降りるケースも
- 誰が確認するのか
 - カリキュラム運用を行う観点から、学校として
 - 教員間での確認、外部の教員による確認、学生のアンケートなどから・・・

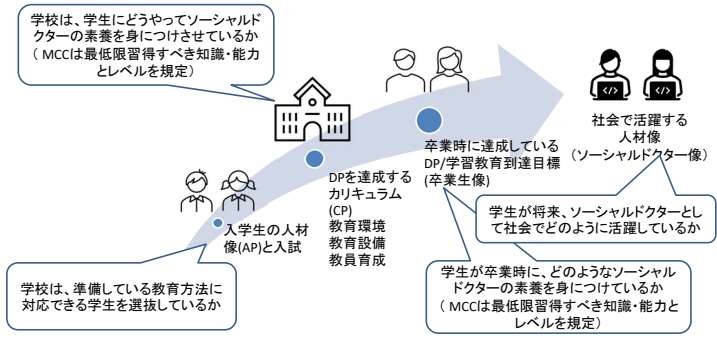
教育の質保証と教育改善活動

福井高専FD研修会
2024/12/18
(本研修会のPP資料は、高専機構本部の上原信知先生の作成された資料を元に作成しています)

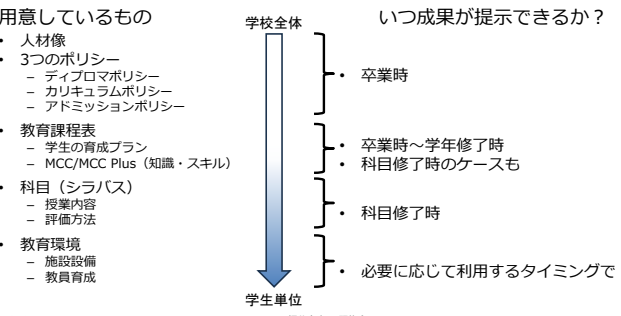
教育の質保証と教育改善活動



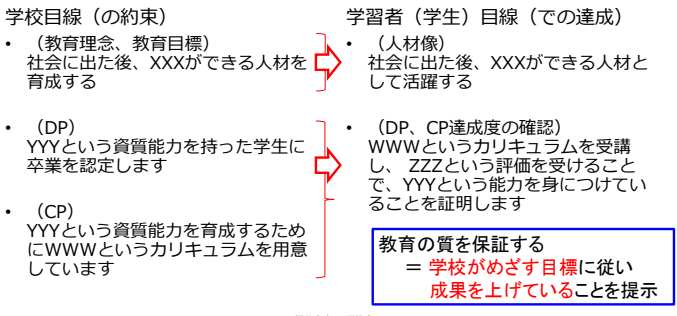
学校が設定する高専での人材育成



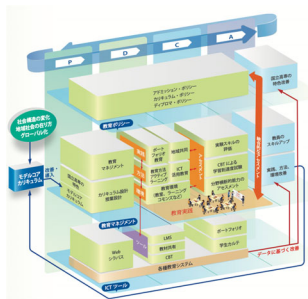
学校が教育にあたって用意しているもの



教育の質を保証する



高専の教育の質保証サイクル



2024/12/18

福井高専FD研修会

43

「教育改善活動」の目的

- 学校は、卒業生が社会で活躍するための学びの場です
- 「ステークホルダー」の要望も取り入れ、「より良い教育」を目指すことが求められます
- 「標準化」の一環として
 - 教育の骨格になる MCC
 - 教育状況の点検を行う KIS が用意されています

最低限の教育の質を定める

教育の質を保証するための、最低限の高専の教育体制を定める

2024/12/18

福井高専FD研修会

44

KIS 基準 2: 教育手段 (2/7)

2.2 シラバスに基づく教育の実施と学生の到達状況の可視化に向けた取組み:

学校は、シラバス等に基づいて教育を実施し、カリキュラムを運営していること。このカリキュラムの運営にあたり、学校は、学生に対して自身の達成度を継続的に点検・反映するための取組みの実践を進めていることに加え、学生に主体的な学習を促す取組みを実施していること。

- 教育課程に基づいた教育実施状況の自己点検制度
- 学生の自主的な学習を促す取り組み
- 学生の達成度を可視化する取り組みの導入計画と導入状況

2024/12/18

福井高専FD研修会

45

KIS 基準 2: 教育手段 (2/7)

2.2 シラバスに基づく教育の実施と学生の到達状況の可視化に向けた取組み:

- シラバスに基づいて教育を実施していること
- 実施状況を自己点検していること
- 学生の達成度を可視化し、学生自身が点検して、次の学びに生かす取り組みをしていること
- 学生が自分から学習するように促す取り組みをしていること

2024/12/18

福井高専FD研修会

46

KIS 基準 2: 教育手段 (3/7)

MCCに基づいた新しい教育・評価方法:

- 実験スキルのアセスメント
 - 例えば、学生が実験をする上でのスキルを学年進行に伴って段階的に明示し評価を行うような仕組みを導入して学生の持つ実験スキルを可視化する
- 分野横断的能力（MCC(モデル)）の可視化
 - 例えば、学生の人間力を育成する上で、学校が求める状態を明示するとともに、カリキュラムに基づいて計画的なアセスメントを行い、学生の分野横断的能力を可視化する
- ポートフォリオ教育
 - 例えば、学生自身の状況を記録しながら、成長を可視化し、学生が自ら何をすべきか考えられるように支援し、学生の学び続ける姿勢を育成する

2024/12/18

福井高専FD研修会

47

シラバスへの記入について

シラバスへの記入について（新2年生の科目）

- 来年度は2年生が新MCC適用になります => Webシラバスの2年生の科目のMCCに対応する○がすべて削除されます。
- Webシラバス（編集）- 学科 - 科目割当てで再度○を付ける必要があります。この操作は、学科長、創造教育開発センター員、専攻科長、教務主事団のみが可能です。
- その後に科目担当者が、週毎のMCCの割り付けを行ってもらいます。

2024/12/18

福井高専FD研修会

48

初年度教員との面談研修

日 時：令和 7 年 3 月 5 日(火) 10:00～10:55

説明者：米田創造教育研究センター長

出席者：機械工学科：橋本、電子情報工学科 森田、物質工学科 野元、環境都市工学科 津野
一般科目教室 大谷

内 容：

高専教員として1年間過ごした中での助かった点や困った点などをお聞きしました。

- 成績評価時の点数の付け方が難しい。
- 授業・実験時においてどの程度力を入れるのか。
- 周りの教員がこまめに声を掛けてくれて助かった。
- Teams での連絡なども多くあるが、初めてのことで最初は戸惑うことが多かった。
- 学生対応やフォローについて教えてもらった。
- 学生で気になることがあった場合に担任に連絡することの重要性を教えてもらった。
- 学生対応でどこまで対応すればよいのかの線引きが難しい。

以下の質問についてご説明しました。

- 授業時の態度における成績の付け方
- やむ得ない事情により授業ができない場合の対応
- 昇格人事の制度について
- 研究・教育・校務のバランスについて

学科や周りのスタッフからのサポートがあり、高専教員としてうまくスタートできているように感じました。福井高専の状況や高専教員としての考え方などを理解していただき、高専教員として今後ますます活躍してくれると思います。



教員間ネットワーク会議

令和6年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表(赤字が座長)

	(学科長確認)	(学科長確認)				(学科長確認)	
所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 兼ねる	1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 工学倫理WG	2-1.数学に関するネットワーク会議	2-2.物理に関するネットワーク会議	2-3.情報処理に関するネットワーク会議	3.専門・複合科目に関するネットワーク会議	4.デザイン教育に関するネットワーク会議	5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む
座長	米田	千徳	高久	米田	山脇	西城	青木
一般科目教室 (当該教科・科目)	川畑・中谷内 (社会)	柳原・井上 (数学・応用数学)	長谷川・土田 (物理・応用物理)	相場・長水		長水	宮本・大谷 (英語・国語)
機械工学科	金田	千徳	村中	亀山	芳賀・亀山	藤田・亀山	高橋
電気電子工学科	米田	荒川 (電気数学担当者)	福嶋 (強電科目担当者)	米田・丸山	米田・堀川・佐藤	丸山・西城	濱住 (専攻科演習担当者)
電子情報工学科	青山	波多	高久	西	斉藤・西・高久	青山・堀井	小越
物質工学科	古谷	西野	野元	佐々	山脇・佐々・高山	松野・坂元	川村
環境都市工学科	大和	蓑輪	辻子	大和	樋口・辻野・津野	田安・芹川	吉田

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

(参考) 令和5年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表(赤字が座長)

	(学科長確認)	(学科長確認)				(学科長確認)	
所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 兼ねる	1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 工学倫理WG	2-1.数学に関するネットワーク会議	2-2.物理に関するネットワーク会議	2-3.情報処理に関するネットワーク会議	3.専門・複合科目に関するネットワーク会議	4.デザイン教育に関するネットワーク会議	5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む
座長	米田	千徳	挽野	亀山	山脇	亀山	野々村・西城
一般科目教室 (当該教科・科目)	木村・中谷内・川畑 (社会)	柳原・中谷 (数学・応用数学)	挽野・長谷川・土田 (物理・応用物理)	相場・長水		長水	木下 (英語・国語)
機械工学科	金田	千徳	村中	亀山	加藤・芳賀・亀山	藤田・亀山	高橋
電気電子工学科	米田	荒川 (電気数学担当)	秋山 (強電系科目担当)	米田・丸山	山本・米田・佐藤	秋山・西城	福嶋・西城 (工学演習担当)
電子情報工学科	青山	波多	堀井	川上・西	斉藤・高久・西	青山・川上	小越
物質工学科	古谷	川村	西野	佐々	高山・山脇・佐々	川村・松野	後反・松井
環境都市工学科	大和	蓑輪	辻野	大和	樋口・辻野・奥村	奥村・芹川	野々村・吉田

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者

(参考) 令和4年度教員間ネットワーク会議 出席者提出表(赤字が座長)

所属学科・教室名 会議番号1, 2-3, 3, 4は、右記の WG・打合せ会議で 兼ねる	1.社会及び技術者倫理に関するネットワーク会議 工学倫理WG	2-1.数学に関するネットワーク会議	2-2.物理に関するネットワーク会議	2-3.情報処理に関するネットワーク会議	3.専門・複合科目に関するネットワーク会議	4.デザイン教育に関するネットワーク会議	5.コミュニケーション教育に関するネットワーク会議 *プレゼンテーション教育を含む	6.プレゼンテーション教育に関するネットワーク会議 廃止
座長	米田	堀川	千徳	亀山	樋口	亀山	藤田卓	
一般科目教室 (当該教科・科目)	佐藤・木村・川畑 (社会)	中谷・井之上 (数学・応用数学)	山田・長谷川・挽野・土田 (物理・応用物理)	相場		長水	藤田卓 (英語・国語)	-
機械工学科	金田	加藤	千徳・高橋	亀山	芳賀・亀山	藤田・亀山	村中	-
電気電子工学科	米田	堀川	松浦	米田・丸山	堀川・米田・佐藤	秋山・西城	荒川	-
電子情報工学科	青山・斉藤	波多	波多・村田	川上・西	斉藤・高久・西	青山・川上	小越	-
物質工学科	古谷	坂元	西野	佐々	山脇・佐々	川村・松野・高山	後反・松井	-
環境都市工学科	大和	蓑輪	辻野	大和	樋口・辻野・奥村	奥村・芹川	吉田	-

*学際科目担当者 *プロジェクト演習担当者 *プレゼンテーション教育と統合

各種アンケート

令和6年度前期授業評価アンケートの実施について

教務に関する申合せ「授業評価アンケート実施等に関する事項」に基づき、Microsoft Forms を利用して実施する。

1 目的

FD 活動の一環として、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的として実施する。集約した授業評価アンケート結果は各科目の授業点検シートに反映し、授業内容の改善につなげることとし、加えてアンケート結果を教学 IR における基礎データとして活用することで、本校全体のより質の高い教育改善及び教育環境改善を行うこと目指すものとする。

2 実施期間 令和6年7月16日（火）～7月29日（月）

【14週目から15週目（前期期末試験前）】

3 実施方法 学科及び専攻科ごとに授業評価アンケートを作成し、所属学生には創造教育開発センター員（専攻科生は教務係）が周知し、回答を依頼する。

4 質問項目

- この授業の内容や進度はシラバスに書かれている通りだった
- 教員の説明は分かりやすかった
- 演習問題、課題、レポート、小テスト等に無理なく取り組むことができた
- 授業の内容に興味を持つことができ、理解を深めることができた
- この授業に意欲的に取り組んだ
- この授業を受けることによって、学力の向上を実感できた
- （科目名）の授業の良かった点、また改善すべき点などありましたら、具体的、建設的に書いてください【自由記述】

5 集計結果について

1) 教務係にて下図のとおり分類し、通知する。

	通知先
専門科目	学科長
専門基礎科目（1年生）	学科長

一般科目	一般科目教室主任
(専攻科) 一般・専門科目	専攻科長
学際科目	(該当する) 学科長

※学生の回答は無記名式として、学生の個人データは集計結果に含めない。

- 2-1) 各学科長、一般教育科目主任、専攻科長（以下「各学科長等」）から科目担当教員へデータ又は紙面で通知する。
 - ①コメント欄等には原則加工を加えない
 - ②学科長等の判断において、科目担当教員ごとの通知とせず、構成員全体（一般科目は教科ごと）へ周知することも可能
- 2-2) コメント欄を削除した集計結果をガルーンに掲載する。
- 2-3) HP では全科目の集計データを公表する。

6 アンケート実施にあたっての留意事項

- 1) Forms のフォーマットは各センター員が所属学科分を作成する。
専攻科に関しては教務係が作成する。
- 2) 集計後、分類することを念頭に、一般科目→専門科目→自学科の学際領域科目群→他学科の学際領域科目群の順番に作成する。
- 3) 専攻科1年生の工学実験Ⅰ及び工学演習Ⅰは各系に分けて作成する。

7 その他

- 1) 委員会
本会議にて実施及び運用方針を審議、決定し、教務委員会にて報告する。
- 2) データの取扱い
授業評価アンケート結果の集計処理・データ分析については、教学 IR 推進室、教務主事団、創造教育開発センターおよび教務係で行う。
- 3) 学生の授業評価アンケートに対するコメント
学生の授業評価アンケートに対して、授業点検シート内にコメントを記載し、必要であれば学生に対して授業改善のアナウンスを授業中に行う。

【学生向け通知文書（案）】

令和6年度授業評価アンケートの実施について

学生の皆さんへ

- ・学生の皆さんに、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的とした授業アンケートに回答してください。学校や自宅で、パソコンやスマホから回答できます。各自が期限内に必ずアンケートに回答するようにしてください。

対象学生：本科・専攻科全学生

回答期限：令和6年7月16日（月）～7月29日（金）

●アンケート回答方法

下記 Microsoft Forms (URL) にアクセスし回答します。

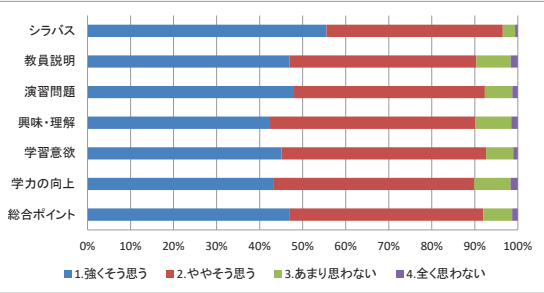
※前期に受講した授業科目について回答してください。

回答内容は、担当教員にフィードバックするとともに、教学 IR における基礎データとして教育の質保証、授業改善等に利用しますので、誠意ある回答をお願いします。
履修登録を行ったものの、実際に受講していない科目は回答しないでください。

令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科]
学科 []
科目 []
一般科目

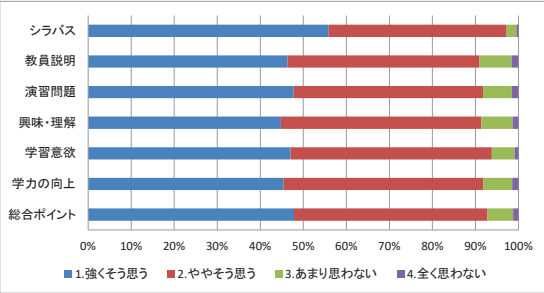
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	3675	2714	190	42	83.8
教員説明	3121	2892	530	110	78.5
演習問題	3195	2956	426	84	79.7
興味・理解	2830	3182	556	102	77.0
学習意欲	3006	3174	421	71	78.9
学力の向上	2880	3096	557	114	77.2
総合ポイント	18707	18014	2680	523	79.2



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []
学科 []
科目 []
全体

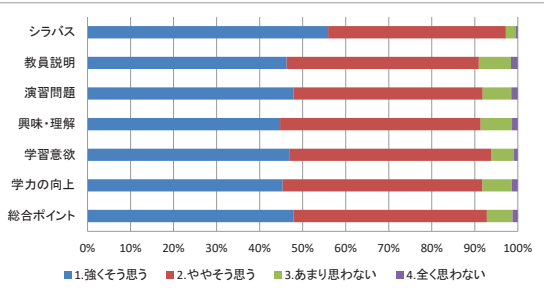
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	7736	5729	314	68	84.2
教員説明	6430	6196	1035	224	78.5
演習問題	6636	6115	931	214	79.3
興味・理解	6239	6493	1008	191	78.3
学習意欲	6549	6519	738	125	80.0
学力の向上	6303	6449	935	202	78.6
総合ポイント	39893	37501	4961	1024	79.8



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科]
学科 []
科目 []
本科

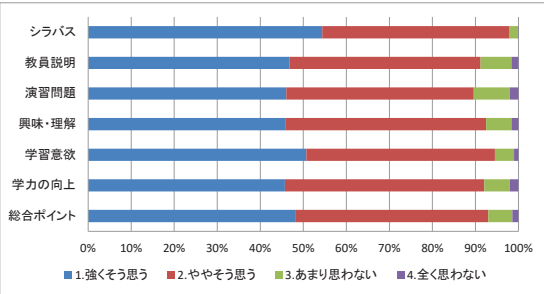
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	7470	5516	305	67	84.2
教員説明	6201	5879	1000	216	78.5
演習問題	6410	5901	890	204	79.4
興味・理解	6013	6264	979	183	78.2
学習意欲	6299	6303	716	120	79.9
学力の向上	6079	6222	906	192	78.6
総合ポイント	38472	36185	4796	982	79.8



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科]
学科 []
科目 []
本科

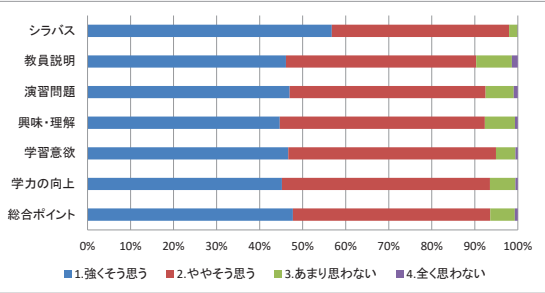
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	266	213	9	1	84.0
教員説明	229	217	35	8	78.8
演習問題	226	214	41	10	77.9
興味・理解	226	229	29	8	78.9
学習意欲	250	216	22	5	81.4
学力の向上	224	227	29	10	78.6
総合ポイント	1421	1316	165	42	79.9



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科1年]
 学科 []
 科目 []
 本科1年

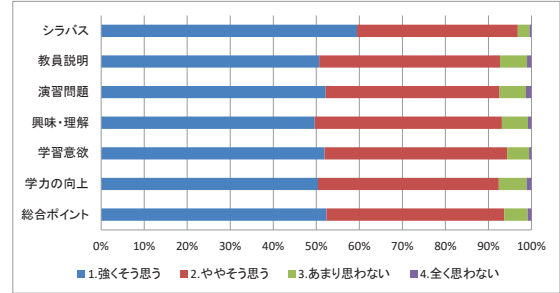
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	1701	1235	58	3	84.9
教員説明	1387	1329	249	42	78.4
演習問題	1410	1367	196	29	79.5
興味・理解	1346	1436	211	20	78.8
学習意欲	1407	1455	136	17	80.3
学力の向上	1360	1456	178	17	79.4
総合ポイント	8611	8278	1028	128	80.2



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科2年]
 学科 []
 科目 []
 本科2年

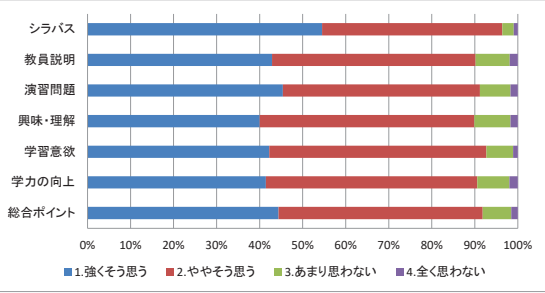
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	1538	967	70	12	85.3
教員説明	1329	1102	165	27	80.8
演習問題	1366	1058	161	33	81.2
興味・理解	1301	1141	159	21	80.7
学習意欲	1360	1112	133	15	81.9
学力の向上	1314	1096	169	29	80.6
総合ポイント	8208	6476	857	137	81.7



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科3年]
 学科 []
 科目 []
 本科3年

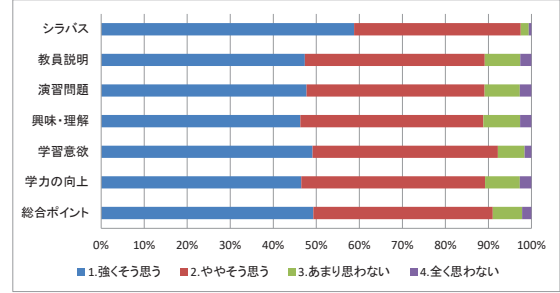
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	1576	1212	77	27	83.3
教員説明	1235	1363	229	54	77.1
演習問題	1315	1328	206	49	78.3
興味・理解	1180	1446	244	49	76.1
学習意欲	1227	1465	180	32	77.9
学力の向上	1197	1420	216	56	76.7
総合ポイント	7710	8234	1152	267	78.2



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科4年]
 学科 []
 科目 []
 本科4年

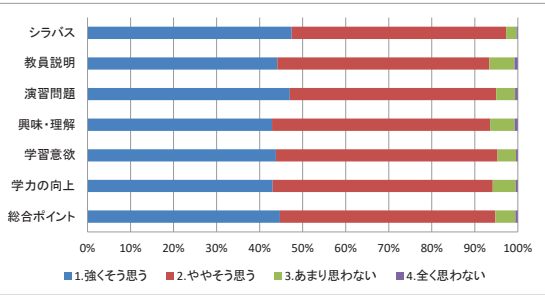
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	1757	1158	55	19	85.2
教員説明	1411	1247	246	78	77.9
演習問題	1424	1234	244	81	78.0
興味・理解	1388	1275	256	79	77.5
学習意欲	1470	1289	185	48	79.9
学力の向上	1388	1275	241	81	77.7
総合ポイント	8838	7478	1227	386	79.4



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [本科5年]
 学科 []
 科目 []
 本科5年

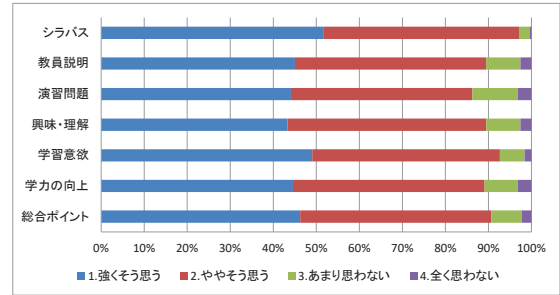
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	898	944	45	6	81.5
教員説明	839	938	111	15	78.9
演習問題	895	914	83	12	80.5
興味・理解	818	966	109	14	78.6
学習意欲	835	982	82	8	79.5
学力の向上	820	975	102	9	78.9
総合ポイント	5105	5719	532	64	79.6



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
 学科 []
 科目 []
 専攻科1年

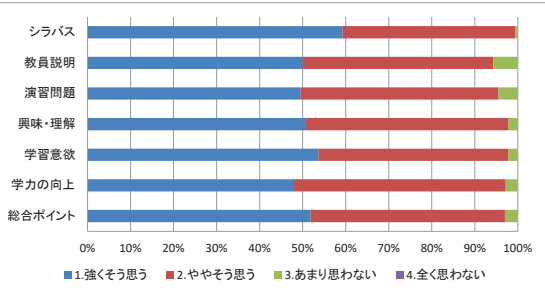
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	160	141	8	1	82.8
教員説明	141	139	25	8	77.3
演習問題	138	132	33	10	75.7
興味・理解	136	145	25	8	76.8
学習意欲	154	137	18	5	80.0
学力の向上	139	139	24	10	76.8
総合ポイント	868	833	133	42	78.2



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
 学科 []
 科目 []
 専攻科2年

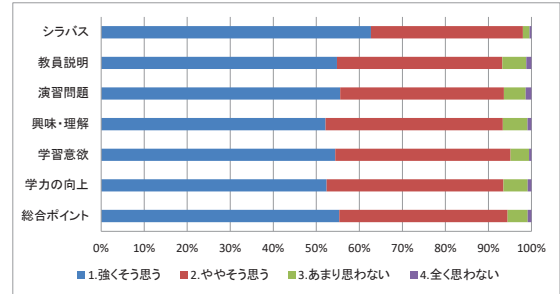
	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	108	72	1	0	86.2
教員説明	88	78	10	0	81.4
演習問題	88	82	8	0	81.6
興味・理解	90	84	4	0	82.8
学習意欲	96	79	4	0	83.8
学力の向上	85	88	5	0	81.6
総合ポイント	553	483	32	0	82.9



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []
 学科 [機械工学科]
 科目 []
 機械工学科

	1.強くそう	2.ややそう	3.あまり思	4.全く思わ	ポイント
シラバス	1359	766	33	10	86.7
教員説明	1190	835	121	28	82.3
演習問題	1205	825	110	29	82.6
興味・理解	1135	897	125	20	81.5
学習意欲	1185	887	94	12	83.0
学力の向上	1133	888	122	19	81.7
総合ポイント	7207	5098	605	116	83.0



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

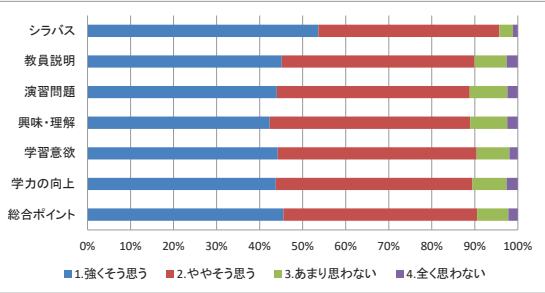
学科 [電気電子工学科]

科目 []

電気電子工学科

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	1173	920	69	25	82.7
教員説明	986	978	163	57	77.5
演習問題	965	984	192	53	76.8
興味・理解	927	1020	188	54	76.3
学習意欲	967	1012	166	43	77.6
学力の向上	955	999	173	57	76.9
総合ポイント	5973	5913	951	289	78.0



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

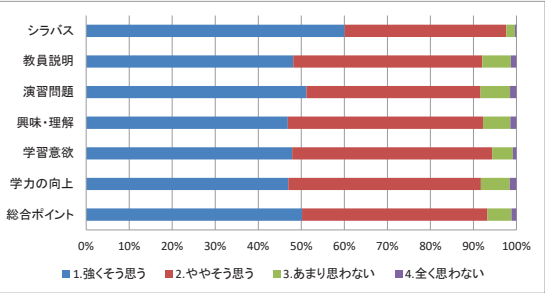
学科 [電子情報工学科]

科目 []

電子情報工学科

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	1305	816	43	8	85.8
教員説明	1061	969	146	29	79.6
演習問題	1124	890	150	33	80.4
興味・理解	1037	1003	141	31	79.2
学習意欲	1059	1029	106	19	80.4
学力の向上	1034	985	148	34	79.1
総合ポイント	6620	5692	734	154	80.8



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

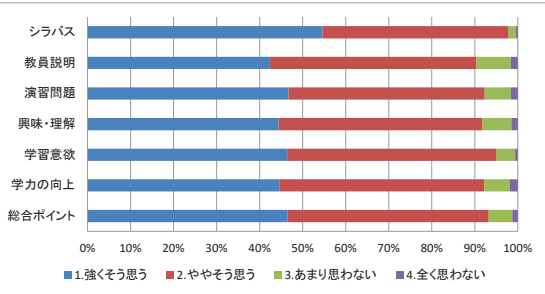
学科 [物質工学科]

科目 []

物質工学科

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	1093	867	34	9	84.0
教員説明	856	970	160	34	77.0
演習問題	942	919	123	32	79.2
興味・理解	898	955	138	30	78.2
学習意欲	938	983	87	13	80.3
学力の向上	899	960	121	37	78.3
総合ポイント	5626	5654	663	155	79.5



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

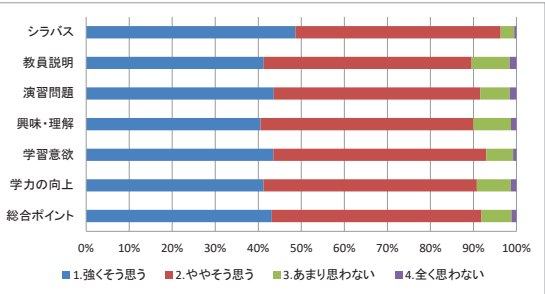
学科 [環境都市工学科]

科目 []

環境都市工学科

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	1147	1125	75	12	81.5
教員説明	965	1130	207	37	76.4
演習問題	1027	1131	162	36	77.9
興味・理解	956	1166	207	30	76.4
学習意欲	1024	1166	147	18	78.6
学力の向上	971	1167	186	31	76.9
総合ポイント	6090	6885	984	164	77.9



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

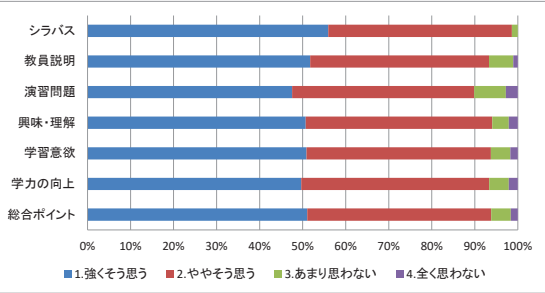
学科 [生産システム工学専攻]

科目 []

生産システム工学専攻

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	160	122	4	0	84.8
教員説明	147	118	16	3	81.3
演習問題	136	121	21	8	78.2
興味・理解	145	124	11	6	80.9
学習意欲	146	123	13	5	81.0
学力の向上	142	125	13	6	80.3
総合ポイン	876	733	78	28	81.1



令和6年度 前期授業評価アンケート

学年 []

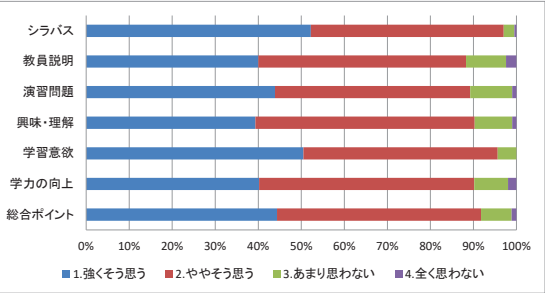
学科 [環境システム工学専攻]

科目 []

環境システム工学専攻

1.強く思う 2.ややそう 3.あまり思 4.全く思わ ポイント

シラバス	106	91	5	1	82.9
教員説明	82	99	19	5	75.3
演習問題	90	93	20	2	77.4
興味・理解	81	105	18	2	76.2
学習意欲	104	93	9	0	82.0
学力の向上	82	102	16	4	76.1
総合ポイン	545	583	87	14	78.3



令和6年度後期授業評価アンケートの実施について

教務に関する申合せ「授業評価アンケート実施等に関する事項」に基づき、Microsoft Forms を利用して実施する。

1 目的

FD 活動の一環として、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的として実施する。集約した授業評価アンケート結果は各科目の授業点検シートに反映し、授業内容の改善につなげることとし、加えてアンケート結果を教学 IR における基礎データとして活用することで、本校全体のより質の高い教育改善及び教育環境改善を行うこと目指すものとする。

2 実施期間 令和7年1月23日（木）～2月5日（水）

【14週目から15週目（後期期末試験前）】

3 実施方法 学科及び専攻科ごとに授業評価アンケートを作成し、所属学生には創造教育開発センター員（専攻科生は教務係）が周知し、回答を依頼する。

4 質問項目

- この授業の内容や進度はシラバスに書かれている通りだった
- 教員の説明は分かりやすかった
- 演習問題、課題、レポート、小テスト等に無理なく取り組むことができた
- 授業の内容に興味を持つことができ、理解を深めることができた
- この授業に意欲的に取り組んだ
- この授業を受けることによって、学力の向上を実感できた
- （科目名）の授業の良かった点、また改善すべき点などありましたら、具体的、建設的に書いてください【自由記述】

5 集計結果について

1) 教務係にて下図のとおり分類し、通知する。

	通知先
専門科目	学科長
専門基礎科目（1年生）	学科長

一般科目	一般科目教室主任
(専攻科) 一般・専門科目	専攻科長
学際科目	(該当する) 学科長

※学生の回答は無記名式として、学生の個人データは集計結果に含めない。

- 2-1) 各学科長、一般教育科目主任、専攻科長（以下「各学科長等」）から科目担当教員へデータ又は紙面で通知する。
 - ①コメント欄等には原則加工を加えない
 - ②学科長等の判断において、科目担当教員ごとの通知とせず、構成員全体（一般科目は教科ごと）へ周知することも可能
- 2-2) コメント欄を削除した集計結果をガルーンに掲載する。
- 2-3) HP では全科目の集計データを公表する。

6 アンケート実施にあたっての留意事項

- 1) Forms のフォーマットは各センター員が所属学科分を作成する。
専攻科に関しては教務係が作成する。
- 2) 集計後、分類することを念頭に、一般科目→専門科目→自学科の学際領域科目群→他学科の学際領域科目群の順番に作成する。
- 3) 専攻科1年生の工学実験Ⅰ及び工学演習Ⅰは各系に分けて作成する。

7 その他

- 1) 委員会
本会議にて実施及び運用方針を審議、決定し、教務委員会にて報告する。
- 2) データの取扱い
授業評価アンケート結果の集計処理・データ分析については、教学 IR 推進室、教務主事団、創造教育開発センターおよび教務係で行う。
- 3) 学生の授業評価アンケートに対するコメント
学生の授業評価アンケートに対して、授業点検シート内にコメントを記載し、必要であれば学生に対して授業改善のアナウンスを授業中に行う。

【学生向け通知文書（案）】

令和6年度授業評価アンケートの実施について

学生の皆さんへ

- ・学生の皆さんに、より良い教育を提供するために、教育改善及び教育環境改善に利用することを目的とした授業アンケートに回答してください。学校や自宅で、パソコンやスマホから回答できます。各自が期限内に必ずアンケートに回答するようにしてください。

対象学生：本科・専攻科全学生

回答期限：令和7年1月23日（木）～2月5日（水）

●アンケート回答方法

下記 Microsoft Forms (URL) にアクセスし回答します。

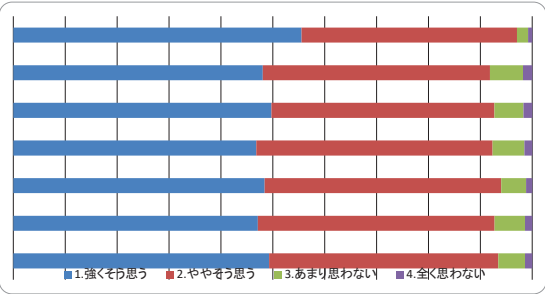
※後期に受講した授業科目について回答してください。

回答内容は、担当教員にフィードバックするとともに、教学 IR における基礎データとして教育の質保証、授業改善等に利用しますので、誠意ある回答をお願いします。
履修登録を行ったものの、実際に受講していない科目は回答しないでください。

令和6年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
除外科目
全体

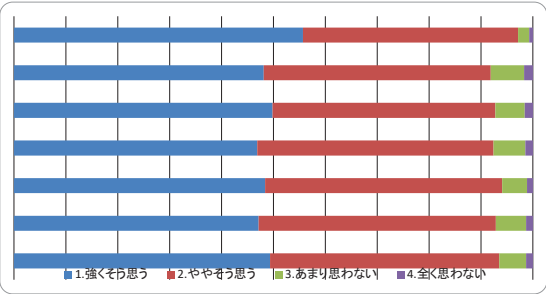
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	7247	5416	280	102	84.0
教員説明	6278	5719	831	231	79.4
演習問題	6503	5616	731	220	80.3
興味・理解	6122	5950	802	198	79.2
学習意欲	6336	5966	628	155	80.4
学力の向上	6158	5962	766	181	79.5
総合ポイント	38644	34629	4038	1087	80.5



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
除外科目
本科

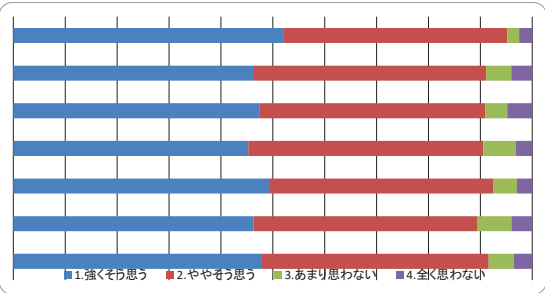
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	6999	5210	269	90	84.0
教員説明	6060	5507	808	212	79.5
演習問題	6277	5408	711	197	80.4
興味・理解	5906	5734	772	183	79.3
学習意欲	6101	5760	606	141	80.5
学力の向上	5938	5757	735	162	79.6
総合ポイント	37281	33376	3901	985	80.5



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
除外科目
専攻科

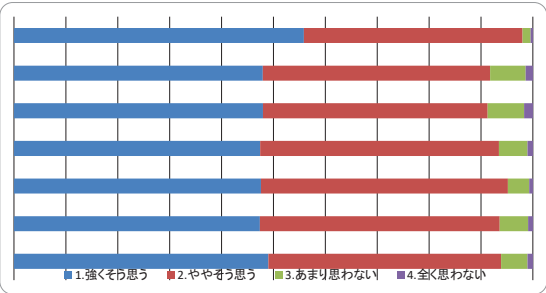
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	248	206	11	12	81.5
教員説明	218	212	23	19	77.8
演習問題	226	208	20	23	77.8
興味・理解	216	216	30	15	77.6
学習意欲	235	206	22	14	79.6
学力の向上	220	205	31	19	77.3
総合ポイント	1363	1253	137	102	78.6



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年
学科
科目
除外科目
本科1年

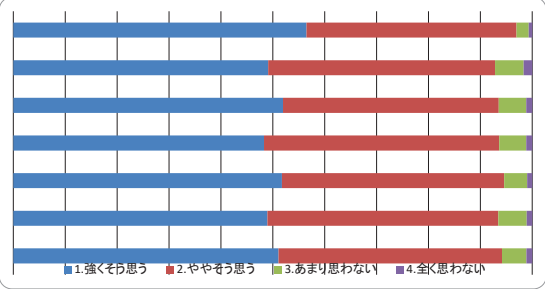
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1768	1334	49	14	84.5
教員説明	1519	1387	217	44	79.4
演習問題	1520	1372	223	53	79.2
興味・理解	1502	1456	174	33	80.0
学習意欲	1508	1508	130	22	80.7
学力の向上	1501	1465	173	29	80.0
総合ポイント	9318	8522	966	195	80.6



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科2年]
学科 []
科目 []
除外科目 []
本科2年

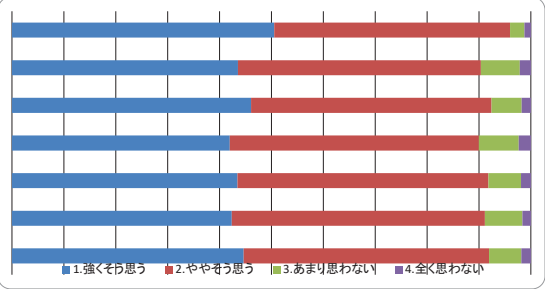
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1507	1080	63	18	84.3
教員説明	1326	1180	148	45	80.1
演習問題	1400	1120	143	31	81.5
興味・理解	1301	1221	140	31	80.3
学習意欲	1398	1156	120	26	81.8
学力の向上	1321	1200	147	29	80.5
総合ポイント	8253	6957	761	180	81.4



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科3年]
学科 []
科目 []
除外科目 []
本科3年

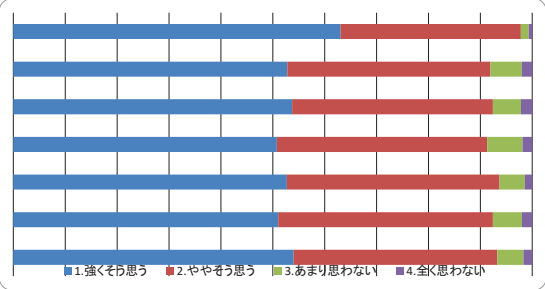
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1339	1204	73	33	81.8
教員説明	1148	1234	198	56	77.3
演習問題	1220	1227	154	47	78.9
興味・理解	1110	1270	203	62	76.5
学習意欲	1152	1281	167	50	77.8
学力の向上	1119	1289	191	43	77.3
総合ポイント	7088	7505	986	291	78.3



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科4年]
学科 []
科目 []
除外科目 []
本科4年

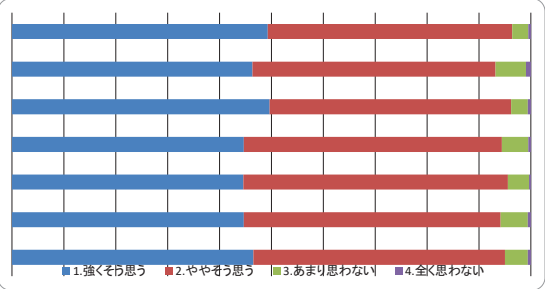
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1698	935	41	18	86.7
教員説明	1421	1053	163	54	80.9
演習問題	1444	1039	146	58	81.3
興味・理解	1368	1091	184	50	80.1
学習意欲	1420	1103	132	38	81.7
学力の向上	1374	1113	151	53	80.5
総合ポイント	8725	6334	817	271	81.9



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [本科5年]
学科 []
科目 []
除外科目 []
本科5年

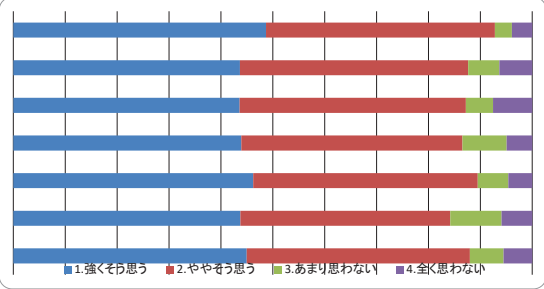
	1.強くそう思う	2.ややそう思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	687	657	43	7	81.7
教員説明	646	653	82	13	79.5
演習問題	693	650	45	8	81.8
興味・理解	625	696	71	7	79.5
学習意欲	623	712	57	5	79.9
学力の向上	623	690	73	8	78.4
総合ポイント	3897	4058	371	48	80.3



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 []
科目 []
除外科目 []
専攻科1年

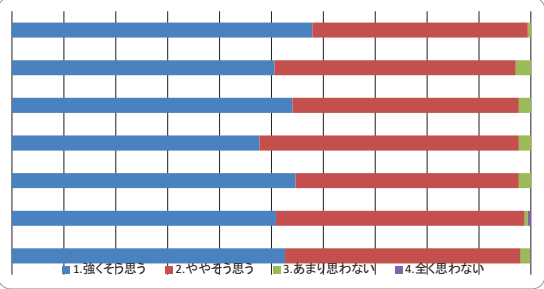
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	148	135	10	12	79.2
教員説明	131	132	18	19	75.0
演習問題	133	133	16	23	74.4
興味・理解	134	130	26	15	75.2
学習意欲	141	132	18	14	77.0
学力の向上	133	123	30	18	74.0
総合ポイント	821	785	118	101	75.8



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 []
科目 []
除外科目 []
専攻科2年

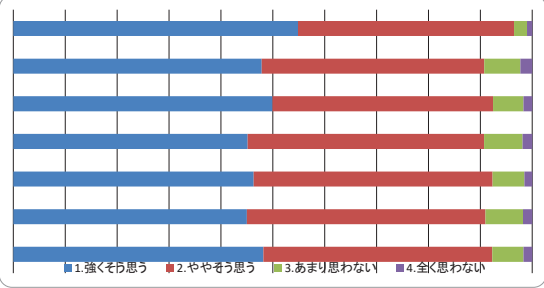
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	99	71	1	0	85.8
教員説明	87	80	5	0	82.6
演習問題	93	75	4	0	83.9
興味・理解	82	86	4	0	81.8
学習意欲	94	74	4	0	84.1
学力の向上	87	82	1	1	83.0
総合ポイント	542	468	19	1	83.5



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 []
科目 []
除外科目 []
一般科目

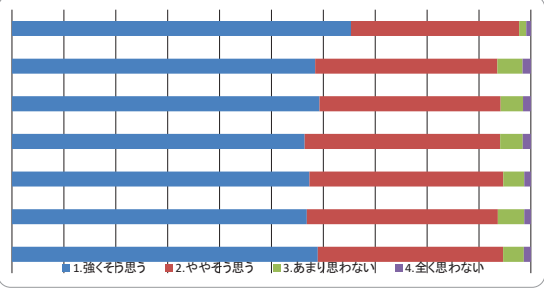
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	3885	2949	179	70	83.5
教員説明	3397	3043	494	161	78.8
演習問題	3546	3020	415	120	80.2
興味・理解	3207	3238	525	133	78.0
学習意欲	3292	3275	435	107	79.1
学力の向上	3196	3266	514	125	78.1
総合ポイント	20523	18790	2562	716	79.6



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 []
科目 []
除外科目 []
機械工学科

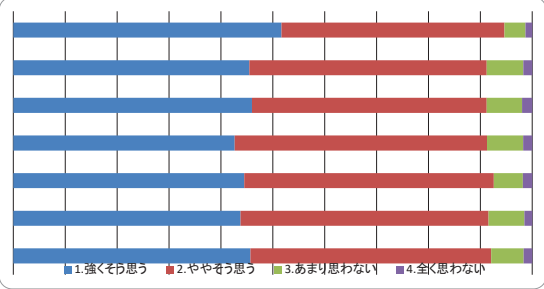
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1335	662	28	18	87.4
教員説明	1197	720	99	33	83.5
演習問題	1210	713	88	31	84.0
興味・理解	1152	769	89	32	83.0
学習意欲	1175	766	83	26	83.6
学力の向上	1162	753	104	26	83.1
総合ポイント	7231	4383	491	166	84.1



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [電気電子工学科]
科目 []
除外科目 []
電気電子工学科

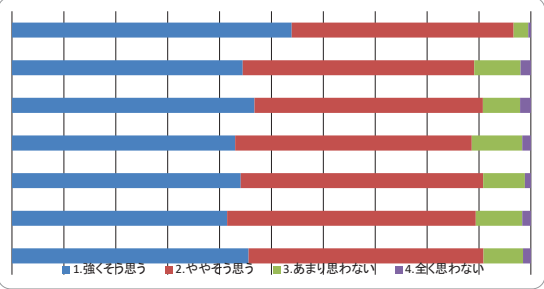
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	998	830	78	25	81.7
教員説明	881	886	137	33	78.3
演習問題	891	876	132	38	78.4
興味・理解	828	944	135	34	77.4
学習意欲	865	934	109	35	78.4
学力の向上	849	927	134	29	78.0
総合ポイント	5312	5397	725	194	78.7



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [電子情報工学科]
科目 []
除外科目 []
電子情報工学科

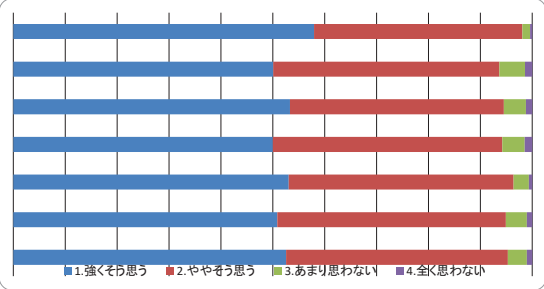
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1059	840	55	10	83.4
教員説明	880	883	177	39	77.2
演習問題	924	870	142	41	78.5
興味・理解	851	902	192	33	76.7
学習意欲	874	926	159	23	77.9
学力の向上	821	949	177	33	76.4
総合ポイント	5409	5370	902	179	78.3



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [物質工学科]
科目 []
除外科目 []
物質工学科

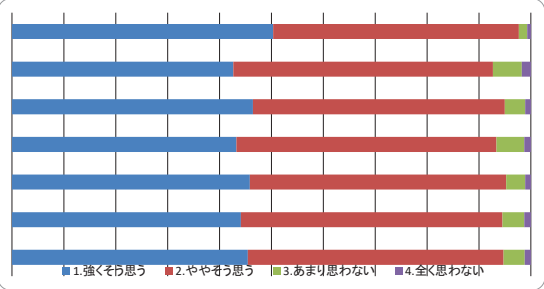
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1005	696	26	7	85.2
教員説明	864	752	85	24	80.8
演習問題	925	715	74	21	82.2
興味・理解	866	766	75	25	80.9
学習意欲	919	750	51	11	83.0
学力の向上	879	761	70	18	81.6
総合ポイント	5458	4440	381	106	82.3



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [環境都市工学科]
科目 []
除外科目 []
環境都市工学科

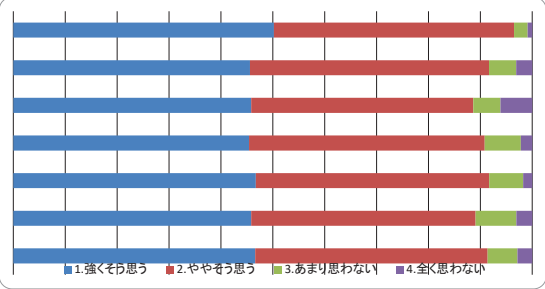
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	1153	1084	37	16	82.5
教員説明	976	1145	127	40	77.9
演習問題	1065	1113	90	25	80.1
興味・理解	993	1150	123	29	78.5
学習意欲	1051	1132	84	25	80.0
学力の向上	1011	1155	96	29	79.1
総合ポイント	6249	6780	557	164	79.7



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [生産システム工学]
科目 []
除外科目 []
生産システム工学

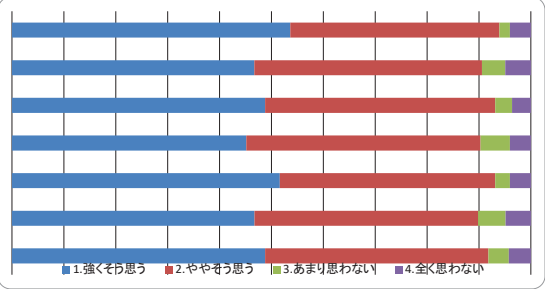
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	115	106	6	2	82.0
教員説明	104	105	12	7	78.1
演習問題	105	98	12	14	76.1
興味・理解	104	104	16	5	78.0
学習意欲	107	103	15	4	78.9
学力の向上	105	99	18	7	77.3
総合ポイント	640	615	79	39	78.4



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 []
学科 [環境システム工学]
科目 []
除外科目 []
環境システム工学

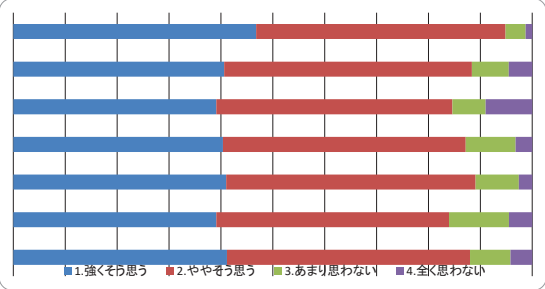
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	133	100	5	10	81.2
教員説明	114	107	11	12	77.5
演習問題	121	110	8	9	79.4
興味・理解	112	112	14	10	77.2
学習意欲	128	103	7	10	80.2
学力の向上	115	106	13	12	77.2
総合ポイント	723	638	58	63	78.8



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
学科 [生産システム工学]
科目 []
除外科目 []
1PS

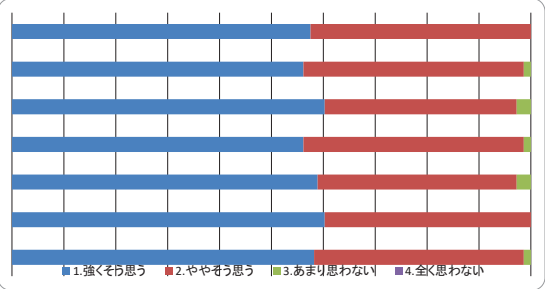
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	73	75	6	2	80.1
教員説明	63	74	11	7	74.8
演習問題	61	71	10	14	71.6
興味・理解	63	73	15	5	74.8
学習意欲	64	75	13	4	75.8
学力の向上	61	70	18	7	72.9
総合ポイント	385	438	73	39	75.0



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
学科 [生産システム工学]
科目 []
除外科目 []
2PS

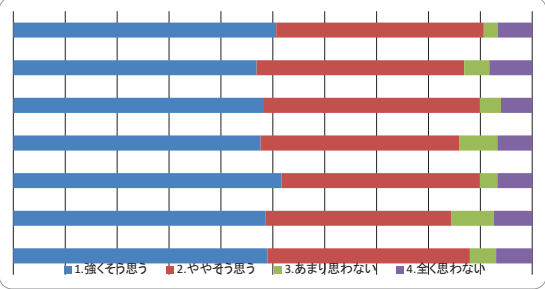
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	42	31	0	0	85.8
教員説明	41	31	1	0	84.9
演習問題	44	27	2	0	85.8
興味・理解	41	31	1	0	84.9
学習意欲	43	28	2	0	85.4
学力の向上	44	29	0	0	86.8
総合ポイント	255	177	6	0	85.6



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科1年]
学科 [環境システム工学]
科目 []
除外科目 []
IES

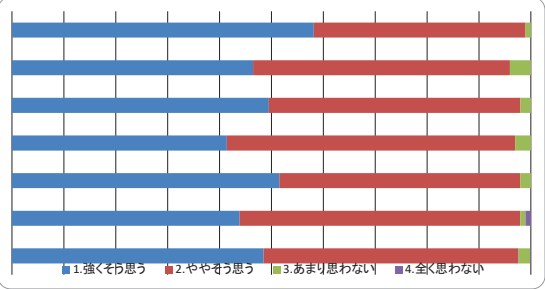
	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	76	60	4	10	78.2
教員説明	68	58	7	12	75.2
演習問題	72	62	6	9	77.4
興味・理解	71	57	11	10	75.6
学習意欲	77	57	5	10	78.3
学力の向上	72	53	12	11	75.2
総合ポイント	436	347	45	62	76.7



令和6年度 後期授業評価アンケート

学年 [専攻科2年]
学科 [環境システム工学]
科目 []
除外科目 []
2ES

	1.強く思う	2.やや思う	3.あまり思わない	4.全く思わない	ポイント
シラバス	57	40	1	0	85.7
教員説明	46	49	4	0	80.8
演習問題	49	48	2	0	82.5
興味・理解	41	55	3	0	79.5
学習意欲	51	46	2	0	83.2
学力の向上	43	53	1	0	80.3
総合ポイント	287	291	13	1	82.0



令和6年度「高専での学びの状況」に関するアンケート集計結果について

対 象：本科・専攻科全学生

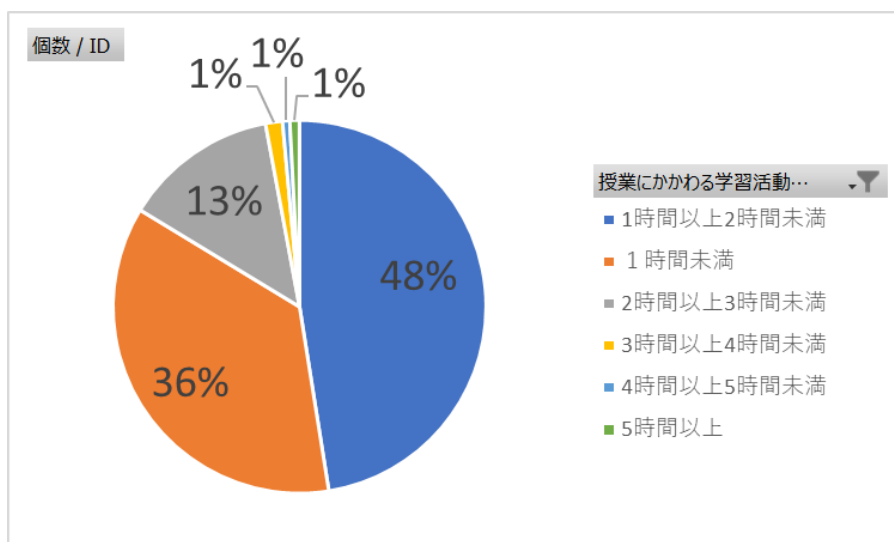
実施期間：令和6年11月5日～11月20日

回答率：91.5%（956名／1045名中） ※全高専回答率61.7%

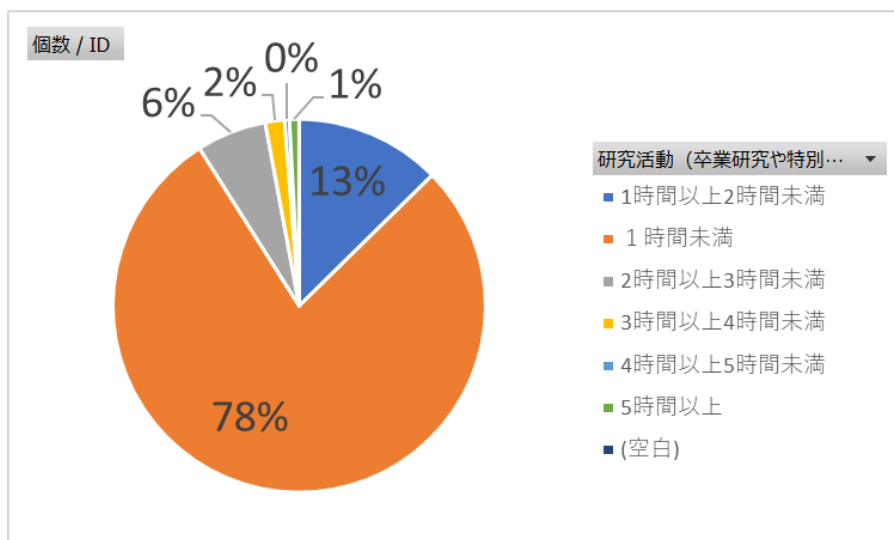
質問項目：

授業期間中（長期休暇や試験期間を除く）の「平均的な平日」の授業時間以外の活動について、1日の活動時間の内、最も近い項目を選んでください。

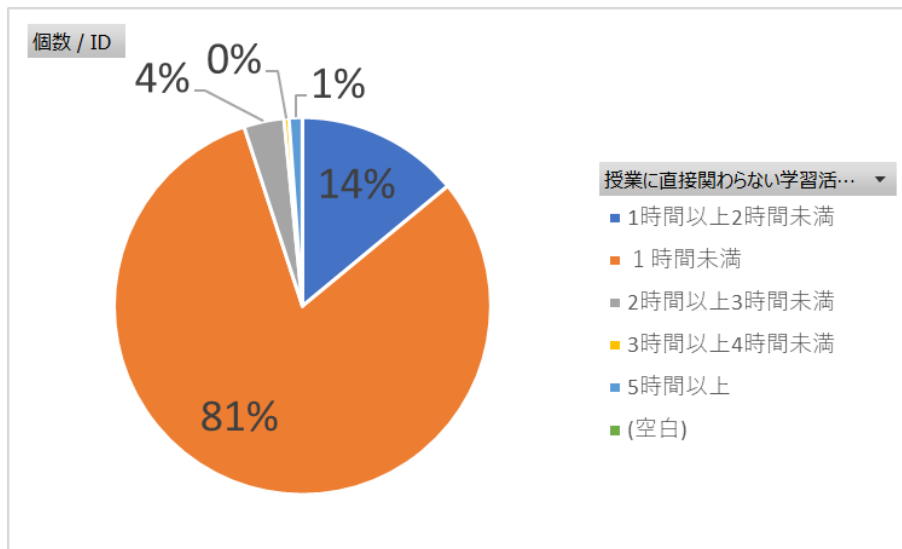
【授業にかかわる学習活動（予習復習、レポート課題等の作業も含む）】



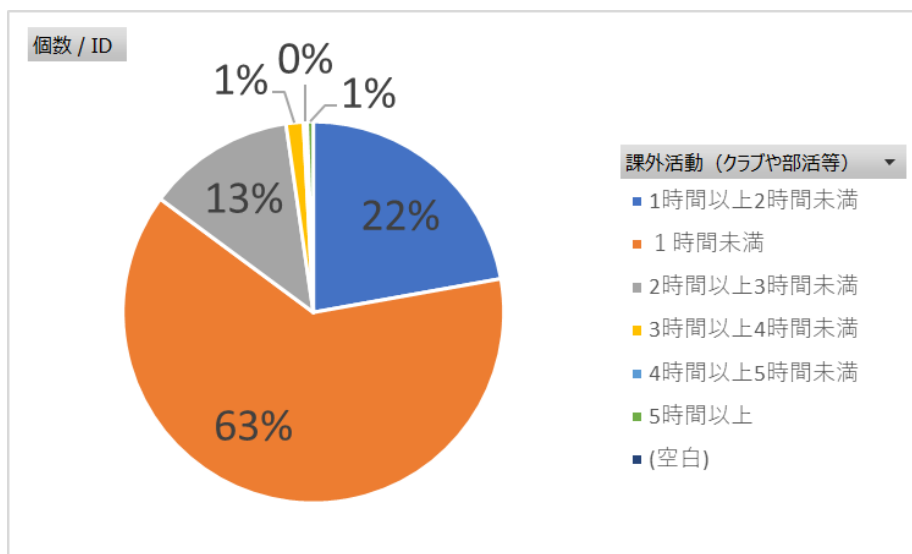
【研究活動（卒業研究や特別研究）】



【授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）】

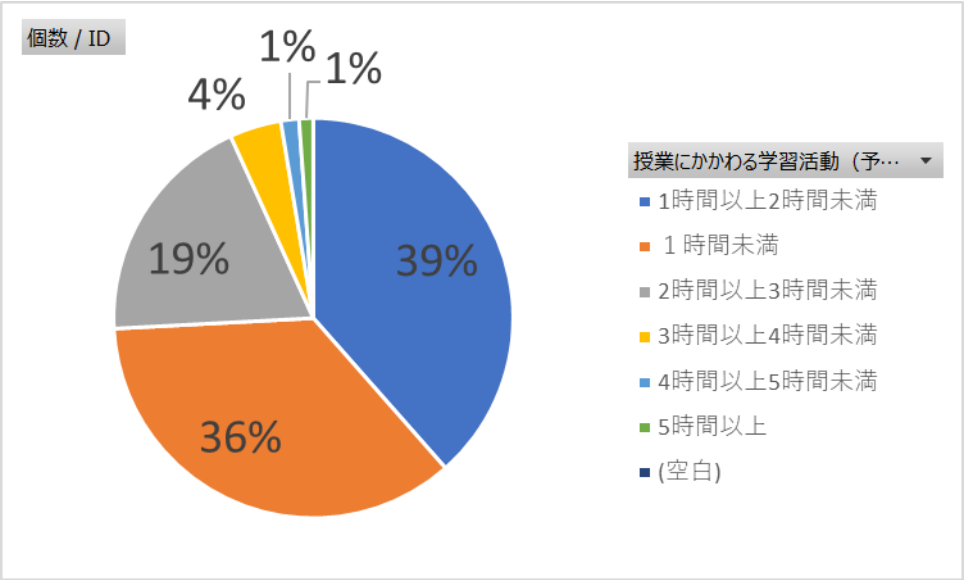


【課外活動（クラブや部活等）】

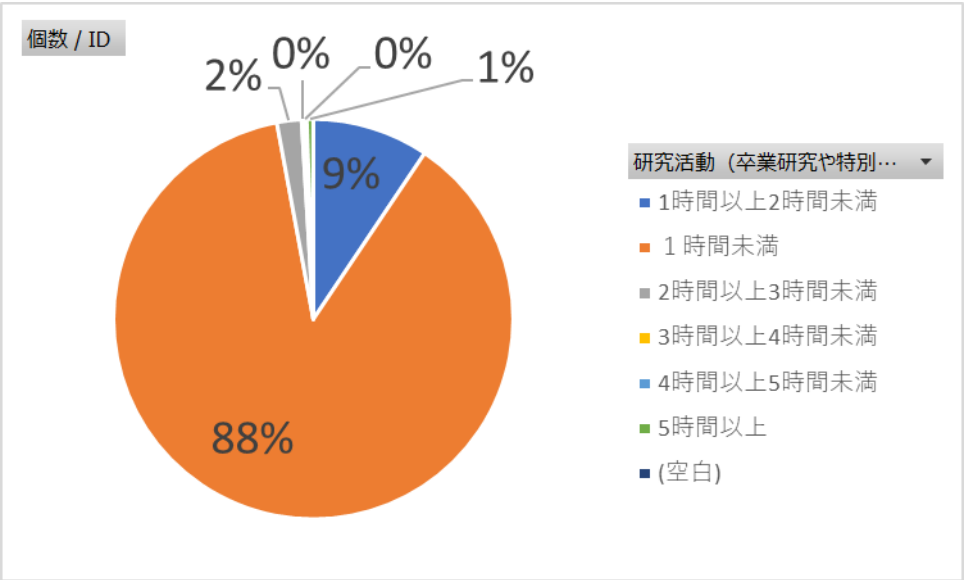


授業期間中（長期休暇や試験期間を除く）の「平均的な休日（土日祝日等）」の授業時間以外の活動について、1日の活動時間の内、最も近い項目を選んでください。

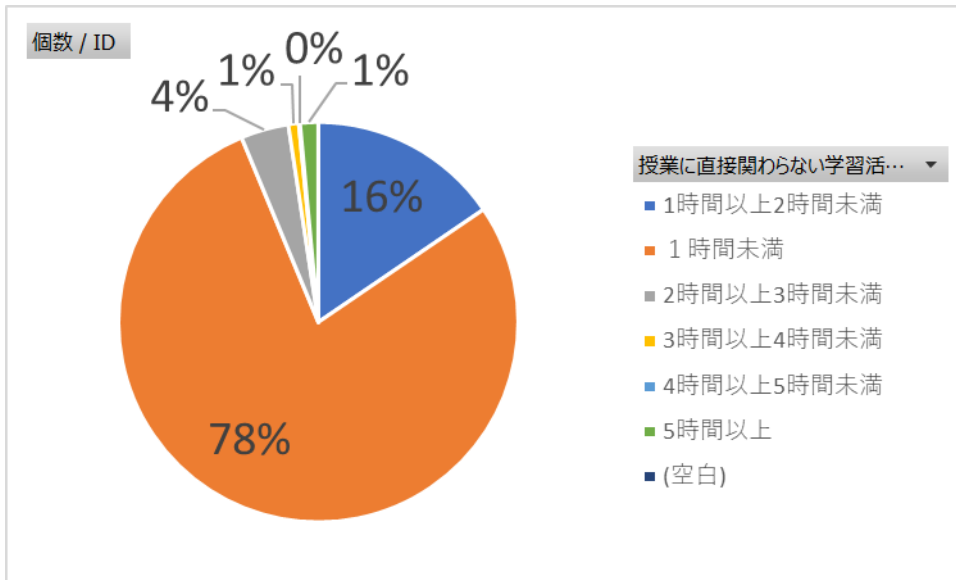
【授業にかかわる学習活動（予習復習、レポート課題等の作業も含む）】



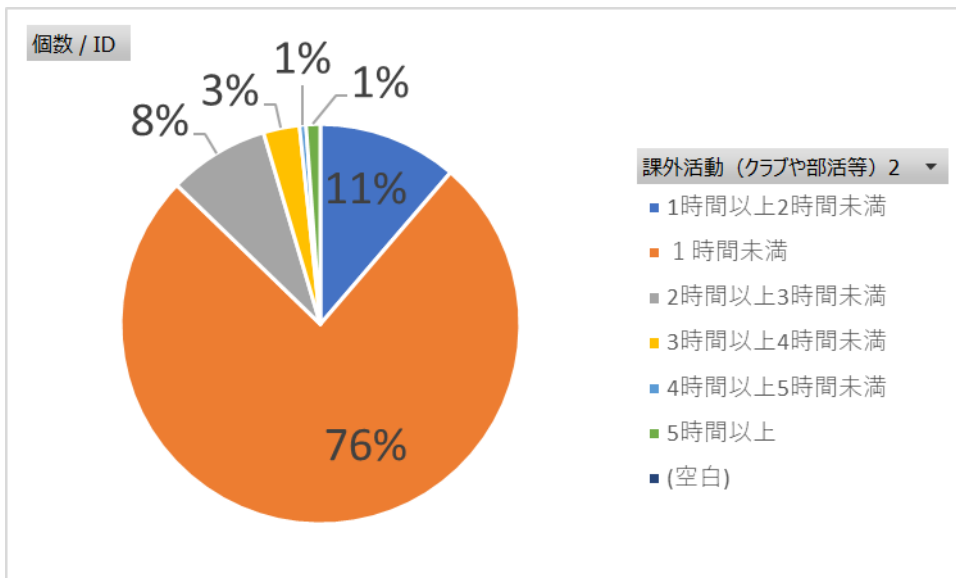
【研究活動（卒業研究や特別研究）】



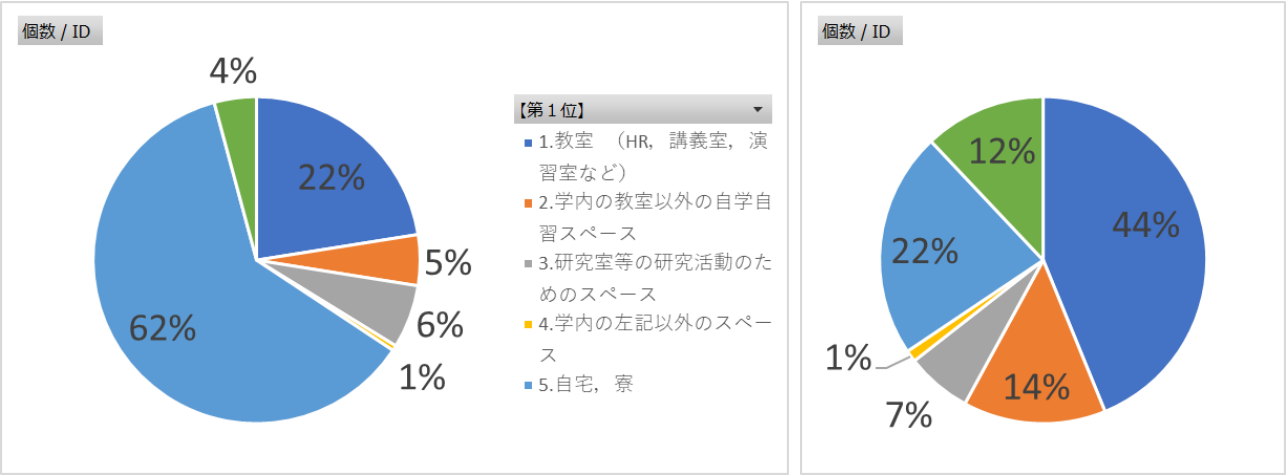
【授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）】



【課外活動（クラブや部活等）】



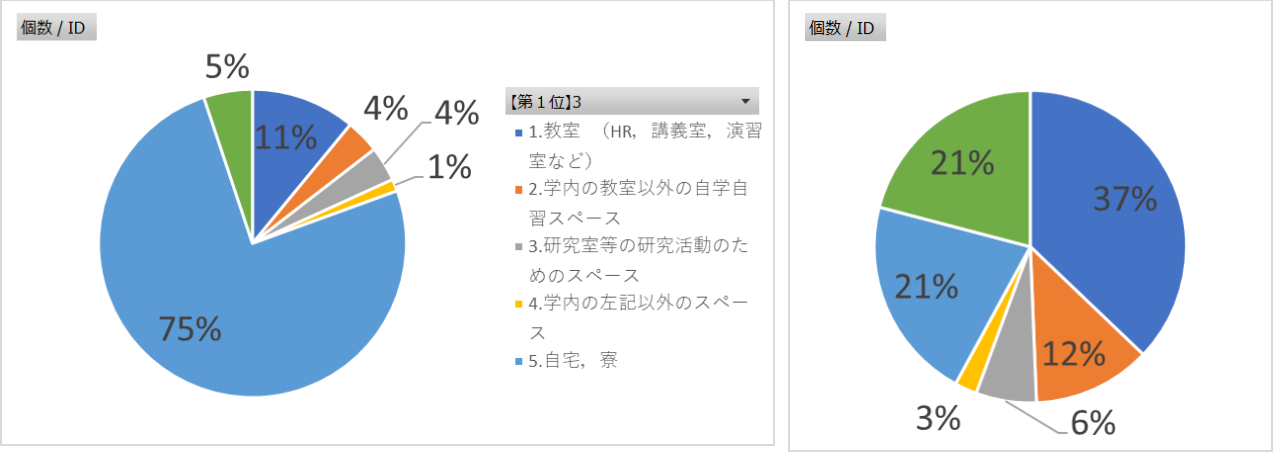
授業にかかわる学習活動（予習復習，レポート課題等の作業も含む）は，主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（左が1位、右が2位）



研究活動（卒業研究や特別研究）は，主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（左が1位、右が2位）

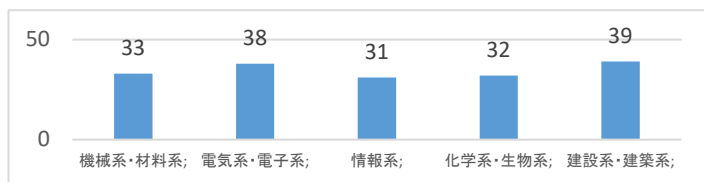


授業に直接関わらない学習活動（資格取得等）は，主にどこで行なっていますか。上位2か所に当てはまるものを選択してください。（左が1位、右が2位）



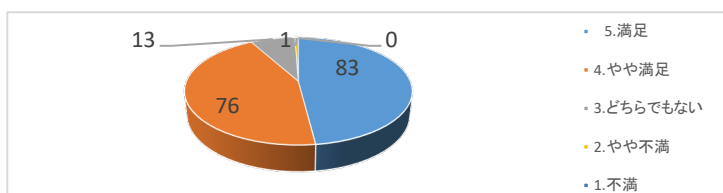
令和6年度卒業生アンケート(機構本部作成) 令和7年2月実施

所属学科/コースを回答してください。



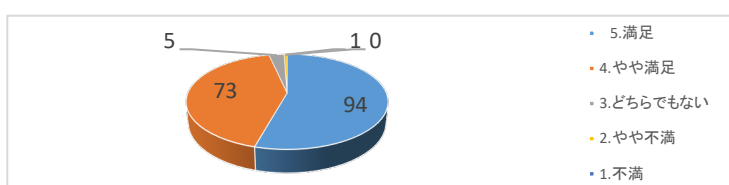
機械系・材料系	33
電気系・電子系	38
情報系	31
化学系・生物系	32
建設系・建築系	39

一般科目の授業



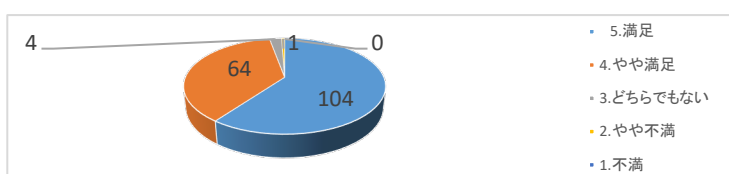
5.満足	83
4.やや満足	76
3.どちらでもない	13
2.やや不満	1
1.不満	0

専門科目の授業



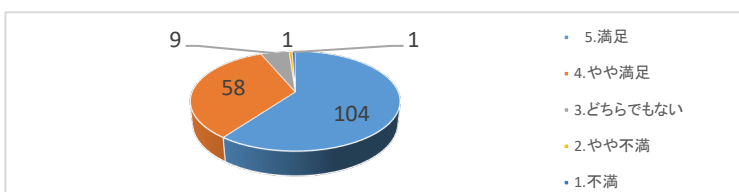
5.満足	94
4.やや満足	73
3.どちらでもない	5
2.やや不満	1
1.不満	0

実験実習等



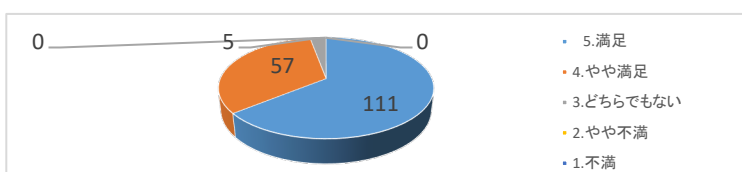
5.満足	104
4.やや満足	64
3.どちらでもない	4
2.やや不満	1
1.不満	0

卒業研究や特別研究等での研究指導



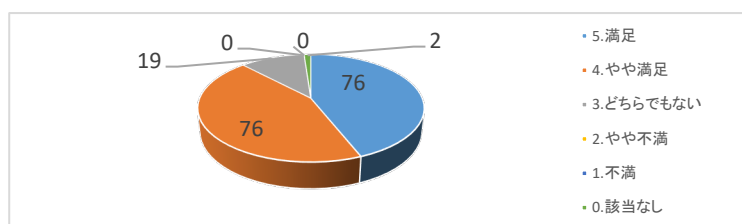
5.満足	104
4.やや満足	58
3.どちらでもない	9
2.やや不満	1
1.不満	1

就職・進学に関する指導や支援



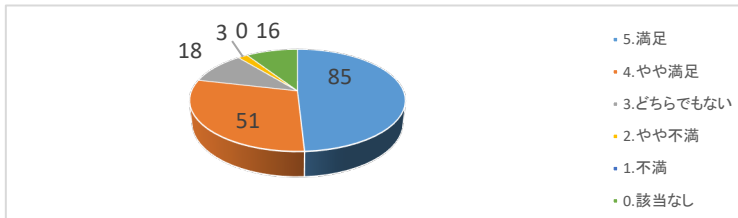
5.満足	111
4.やや満足	57
3.どちらでもない	5
2.やや不満	0
1.不満	0

授業外の学習支援



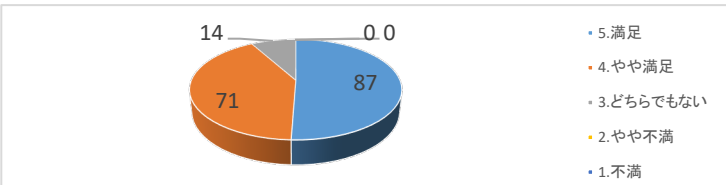
5.満足	76
4.やや満足	76
3.どちらでもない	19
2.やや不満	0
1.不満	0
0.該当なし	2

クラブ活動や課外での活動



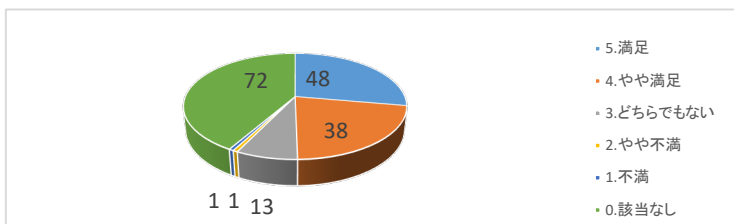
5.満足	85
4.やや満足	51
3.どちらでもない	18
2.やや不満	3
1.不満	0
0.該当なし	16

学生生活の指導や支援



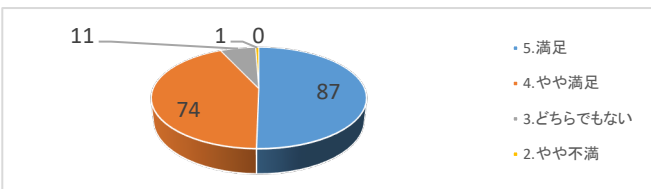
5.満足	87
4.やや満足	71
3.どちらでもない	14
2.やや不満	0
1.不満	0

寮での指導や支援



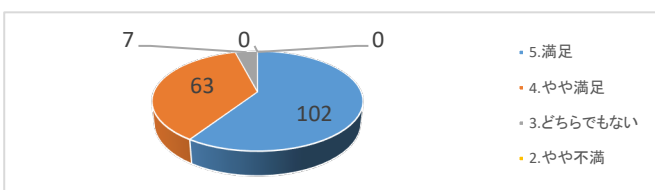
5.満足	48
4.やや満足	38
3.どちらでもない	13
2.やや不満	1
1.不満	1
0.該当なし	72

学校内の自学自習に用いる学習環境・設備(教室を含む)



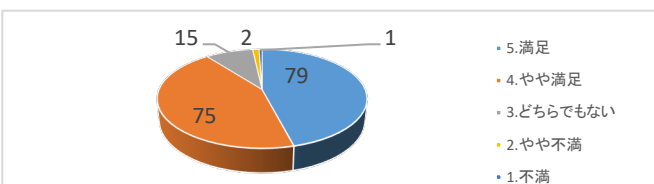
5.満足	87
4.やや満足	74
3.どちらでもない	11
2.やや不満	1
1.不満	0

図書館(蔵書、要望への対応含む)



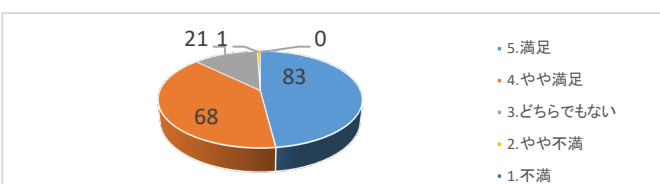
5.満足	102
4.やや満足	63
3.どちらでもない	7
2.やや不満	0
1.不満	0

ICTを活用した学習環境(e-ラーニングのためのITシステム、PC等の機器、ネットワーク環境等)



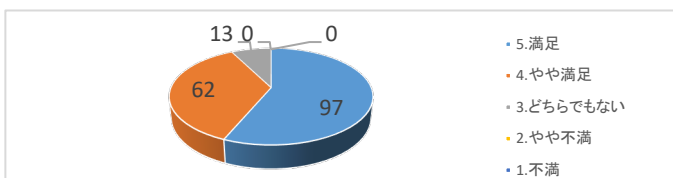
5.満足	79
4.やや満足	75
3.どちらでもない	15
2.やや不満	2
1.不満	1

福利厚生施設、コミュニケーションスペース等



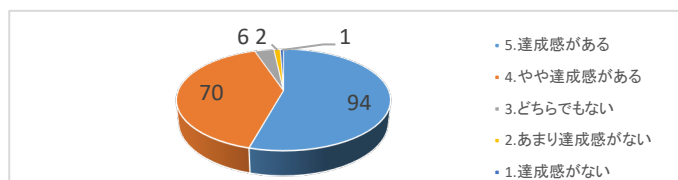
5.満足	83
4.やや満足	68
3.どちらでもない	21
2.やや不満	1
1.不満	0

実験・実習工場や実習船等



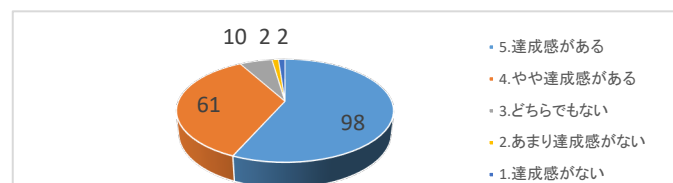
5.満足	97
4.やや満足	62
3.どちらでもない	13
2.やや不満	0
1.不満	0

授業等の学習



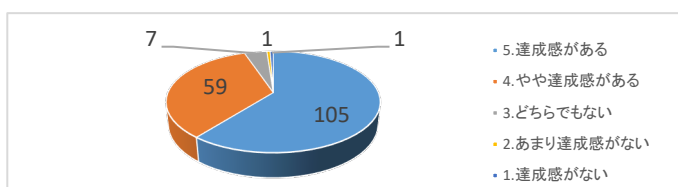
5.達成感がある	94
4.やや達成感がある	70
3.どちらでもない	6
2.あまり達成感がない	2
1.達成感がない	1

卒業研究や特別研究等の研究活動



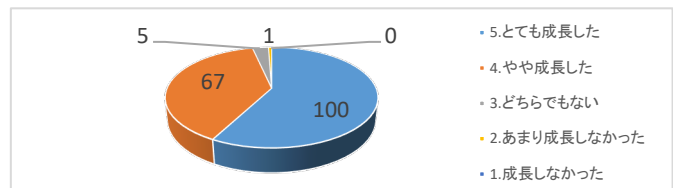
5.達成感がある	98
4.やや達成感がある	61
3.どちらでもない	10
2.あまり達成感がない	2
1.達成感がない	2

進学・就職に向けた取り組み



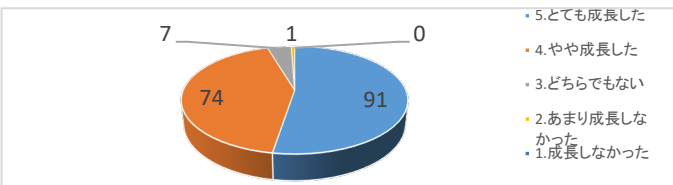
5.達成感がある	105
4.やや達成感がある	59
3.どちらでもない	7
2.あまり達成感がない	1
1.達成感がない	1

実践的技術者に必要な基礎知識や技術



5.とても成長した	100
4.やや成長した	67
3.どちらでもない	5
2.あまり成長しなかった	1
1.成長しなかった	0

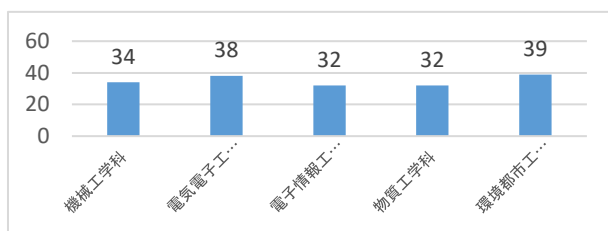
修得した専門知識や技術を社会に還元できる力



5.とても成長した	91
4.やや成長した	74
3.どちらでもない	7
2.あまり成長しなかった	1
1.成長しなかった	0

令和6年度卒業時アンケート(本校作成) 令和7年2月実施

学科名を選択してください。

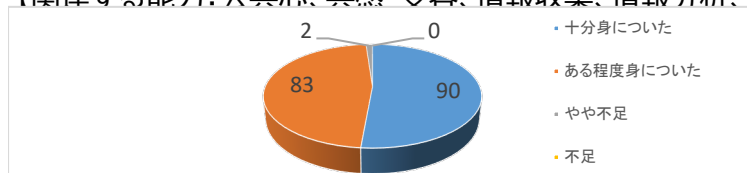


機械工学科	34
電気電子工学科	38
電子情報工学科	32
物質工学科	32
環境都市工学科	39

「多様な文化や価値観を認識できる能力」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、歴史、倫理社会、政治経済、地理、第2外国語、音楽、美術、歴史学特講、哲学、言語文化特講、日本文学論などです。

【関連する能力:公共心、共感・受容、情報収集、情報分析、言語処理、非言語処理】



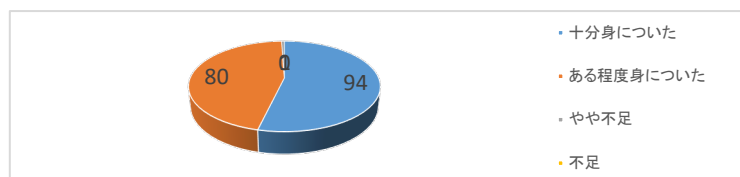
十分身についた	90
ある程度身についた	83
やや不足	2
不足	0

〈不足・やや不足の場合〉地理、音楽についてその講義や内容が不足すると感じた。特に地理に関しては技術者に見識が必要な分野だと考える。

「数学・自然科学に関する能力」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、数学、物理、化学、生物、工学倫理、数理統計学、工学基礎物理、応用数学、数学特講などです。

【関連する能力:工学基礎、情報収集、情報分析、非言語処理】

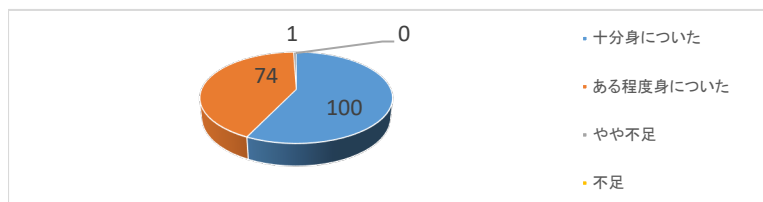


十分身についた	94
ある程度身についた	80
やや不足	1
不足	0

「専門能力」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、本科の専門科目です。

【関連する能力:専門基礎・技術】

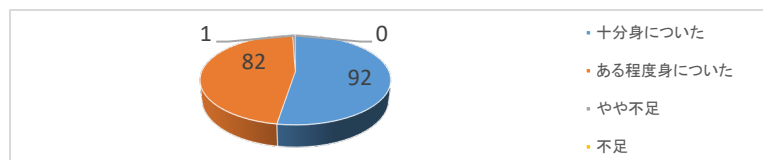


十分身についた	100
ある程度身についた	74
やや不足	1
不足	0

「技術者に必要なデザインマインド」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、ものづくり関連科目や卒業研究などです。

【関連する能力:課題発見、情報収集、情報分析、計画立案】

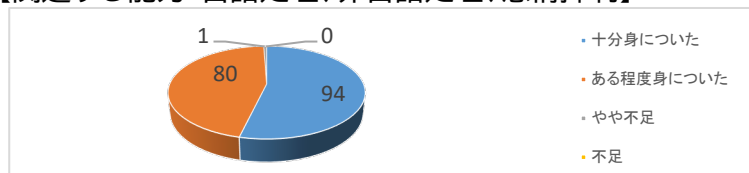


十分身についた	92
ある程度身についた	82
やや不足	1
不足	0

〈不足・やや不足の場合〉課題発見、情報収集

「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」が身につきましたか。
 ※コミュニケーション能力を育成する科目は国語、英語、コミュニケーション、国語表現、日本語表現演習などです。プレゼンテーション能力は、各科目における発表で育成をしています。

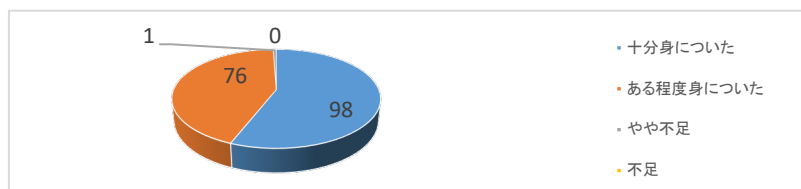
【関連する能力：言語処理、非言語処理、感情抑制】



十分身についた	94
ある程度身についた	80
やや不足	1
不足	0

〈不足・やや不足の場合〉英語、コミュニケーション

「実践的能力と論理的思考能力」が身につきましたか。
 ※これに対応する科目は、保健体育、工学実験、実習、卒業研究などです。
 【関連する能力：計画立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力】



十分身についた	98
ある程度身についた	76
やや不足	1
不足	0

福井高専で受けた教育に対して、よかったと思われる点があれば、設備なども含めて率直にお聞かせください。

専門科目をたくさん学べた

実験

製図を1年生時からCADを使えるといいと思う

自習室

長い期間を通して専門知識を身につけられたのでよかったです。

図書館

先生が丁寧に現象なども含め詳しく教えて下さったため理解がしやすかった

実験機器が豊富でできることが多い

厳しすぎず甘すぎず、進級する時に最低限の能力が身についていることがいいと思いました。

実験などを通して実践的に学習できたこと

色々な系列を持つ先生の話から、色々な知見を得られたこと

実験の設備が整っていて良かった。

先生が親しみやすく、勉強だけでない部分も経験できる

毎週実験実習があって良かった

高学年になるにつれて実験や発表などのグループワークや、社会に出てからも必要な能力を身につける機会があったのでよかった。

専門的な科目を丁寧に教えてくださった点。

高い機材を使って実習を行えたこと

福井高専で受けた教育に対して、改善したほうがよいと思われる点があれば、設備なども含めて率直にお聞かせください。

卒業研究を4年生時から始められると良いと思う

グラウンドよこのお手洗いに改修工事が必要と思う。

天候などによって急遽休校になった時のオンライン授業への切り替えをできるようにしてほしい。

電子情報工学科の改修

あと、工学系の学校なのにpc弱いのはいかなものか…

単位制にしてほしい

寒い事

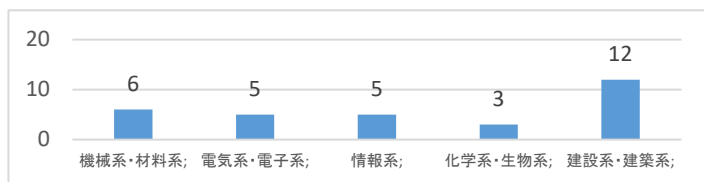
グループワークなどを低学年のうちからできると良いと感じる。

課題の量と期限は、もう少し考えても良いと思う。

PCを用いた授業を増やしたほうがよい

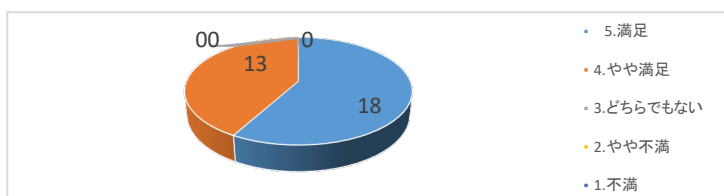
令和6年度修了生アンケート(機構本部作成) 令和7年2月実施

所属学科/コースを回答してください。



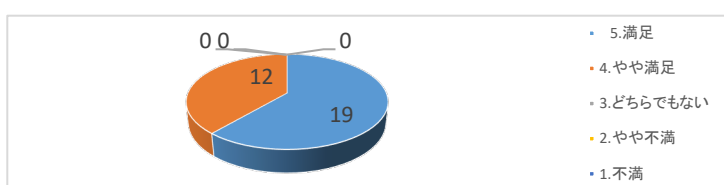
機械系・材料系	6
電気系・電子系	5
情報系	5
化学系・生物系	3
建設系・建築系	12

一般科目の授業



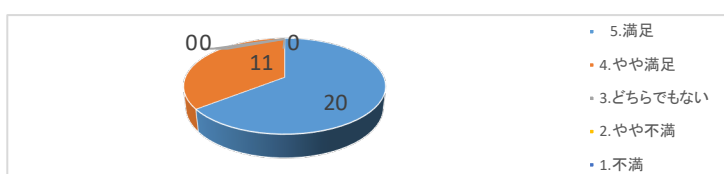
5.満足	18
4.やや満足	13
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

専門科目の授業



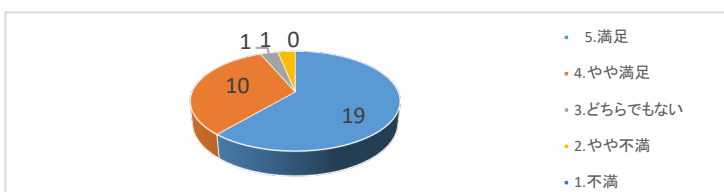
5.満足	19
4.やや満足	12
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

実験実習等



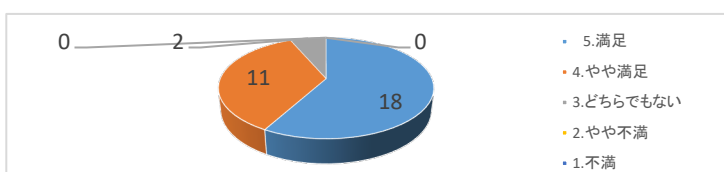
5.満足	20
4.やや満足	11
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

卒業研究や特別研究等での研究指導



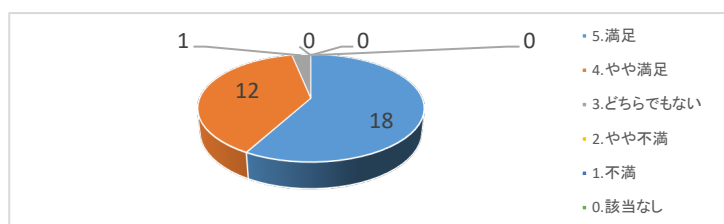
5.満足	19
4.やや満足	10
3.どちらでもない	1
2.やや不満	1
1.不満	0

就職・進学に関する指導や支援



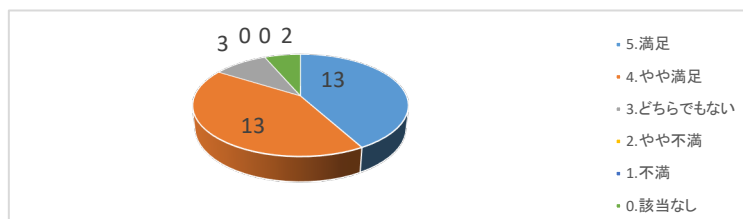
5.満足	18
4.やや満足	11
3.どちらでもない	2
2.やや不満	0
1.不満	0

授業外の学習支援



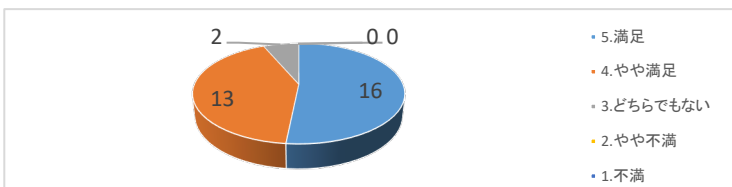
5.満足	18
4.やや満足	12
3.どちらでもない	1
2.やや不満	0
1.不満	0
0.該当なし	0

クラブ活動や課外での活動



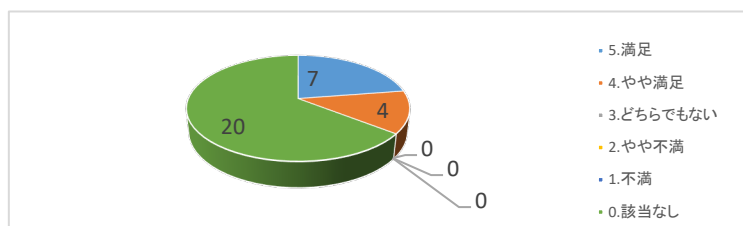
5.満足	13
4.やや満足	13
3.どちらでもない	3
2.やや不満	0
1.不満	0
0.該当なし	2

学生生活の指導や支援



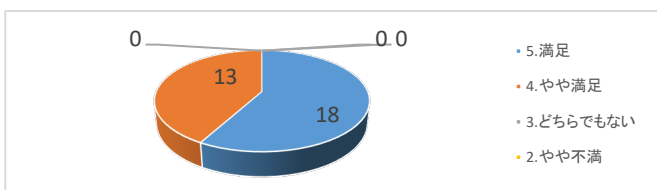
5.満足	16
4.やや満足	13
3.どちらでもない	2
2.やや不満	0
1.不満	0

寮での指導や支援



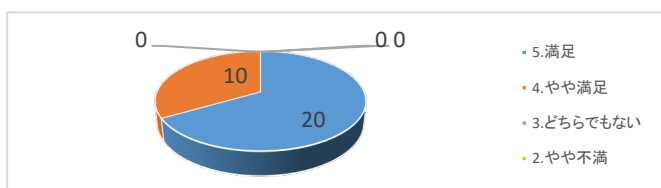
5.満足	7
4.やや満足	4
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0
0.該当なし	20

学校内の自学自習に用いる学習環境・設備(教室を含む)



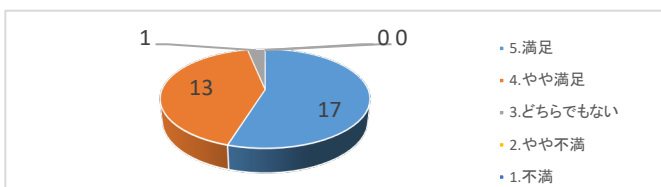
5.満足	18
4.やや満足	13
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

図書館(蔵書、要望への対応含む)



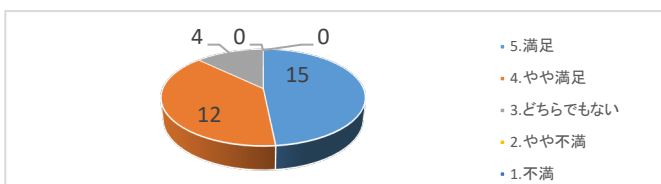
5.満足	20
4.やや満足	10
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

ICTを活用した学習環境(e-ラーニングのためのITシステム、PC等の機器、ネットワーク環境等)



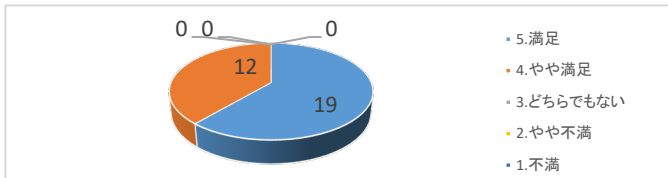
5.満足	17
4.やや満足	13
3.どちらでもない	1
2.やや不満	0
1.不満	0

福利厚生施設、コミュニケーションスペース等



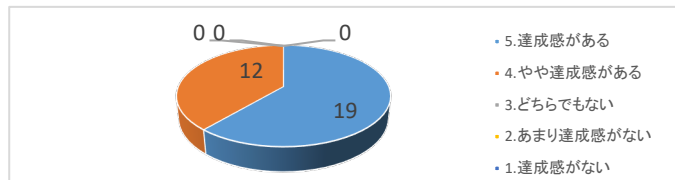
5.満足	15
4.やや満足	12
3.どちらでもない	4
2.やや不満	0
1.不満	0

実験・実習工場や実習船等



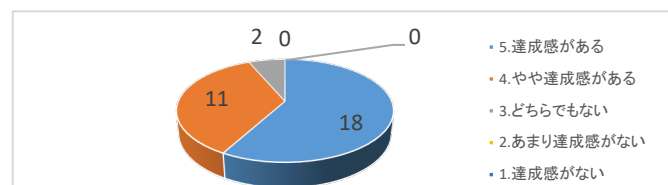
5.満足	19
4.やや満足	12
3.どちらでもない	0
2.やや不満	0
1.不満	0

授業等の学習



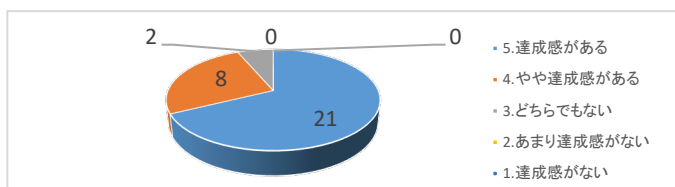
5.達成感がある	19
4.やや達成感がある	12
3.どちらでもない	0
2.あまり達成感がない	0
1.達成感がない	0

卒業研究や特別研究等の研究活動



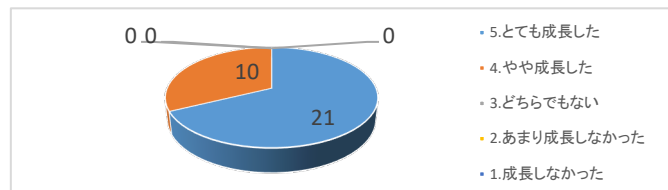
5.達成感がある	18
4.やや達成感がある	11
3.どちらでもない	2
2.あまり達成感がない	0
1.達成感がない	0

進学・就職に向けた取り組み



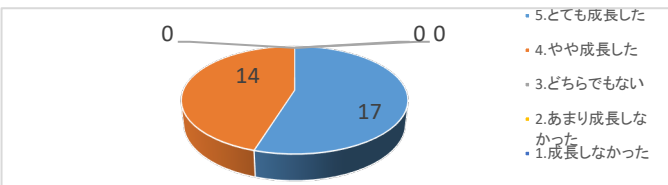
5.達成感がある	21
4.やや達成感がある	8
3.どちらでもない	2
2.あまり達成感がない	0
1.達成感がない	0

実践的技術者に必要な基礎知識や技術



5.とても成長した	21
4.やや成長した	10
3.どちらでもない	0
2.あまり成長しなかった	0
1.成長しなかった	0

修得した専門知識や技術を社会に還元できる力



5.とても成長した	17
4.やや成長した	14
3.どちらでもない	0
2.あまり成長しなかった	0
1.成長しなかった	0

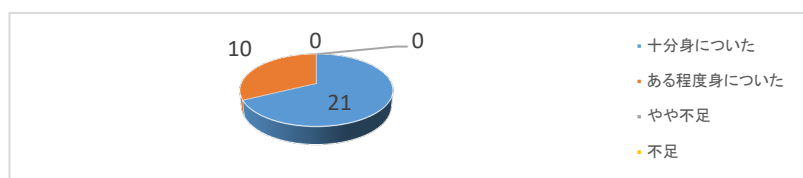
令和6年度修了時アンケート(本校作成) 令和7年2月実施

専攻名を選択してください。

生産システム工学専攻	16
環境システム工学専攻	15

「地球的視点から多面的に物ごとを考える能力」が身につきましたか。
 ※これに対応する科目は、本科の法学やドイツ語・中国語、専攻科の生命進化論などの人文社会系科目および地球環境などの専門共通科目です。

【関連する能力:複眼的視点、情報収集、情報分析、言語処理、非言語処理】

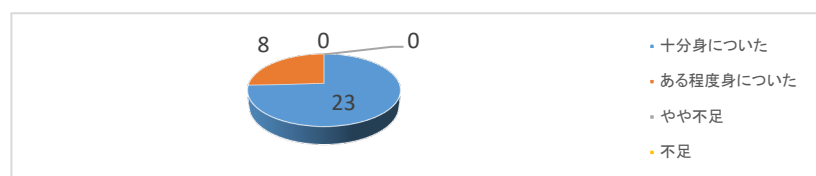


十分身についた	21
ある程度身についた	10
やや不足	0
不足	0

「技術者倫理を意識して考える力」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、専攻科の技術者倫理です。

【関連する能力:公共心、規範意識、責任感】

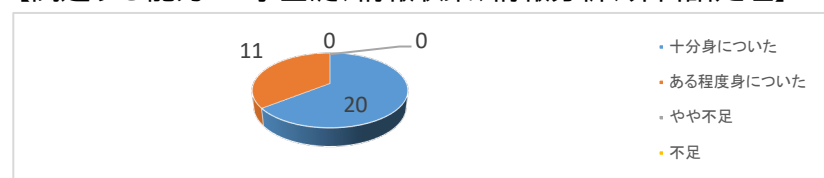


十分身についた	23
ある程度身についた	8
やや不足	0
不足	0

「数学・自然科学・情報技術に関する能力」が身につきましたか。

※これに対応する科目は、本科の応用数学、工学基礎物理、専攻科の工業数理、現代数学論、地球物理、量子力学、連続体力学、物質科学、生物学、ものづくり情報工学、画像情報処理、工学演習です。

【関連する能力:工学基礎、情報収集、情報分析、非言語処理】



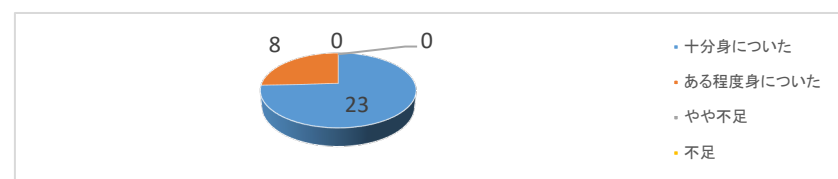
十分身についた	20
ある程度身についた	11
やや不足	0
不足	0

「ものづくり・環境づくり能力」が身につきましたか。

※「ものづくり・環境づくり」とは、得意とする専門技術分野、及び、異なる技術分野の問題にも対処できるようなものづくりの能力のことです。

※これに対応する科目は、本科4, 5年の専門科目、専攻科の専門展開科目(選択科目)、他専攻の科目、環境工学、先端材料工学です。

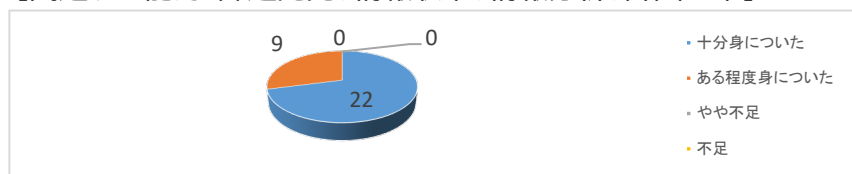
【関連する能力:分野横断思考、専門基礎】



十分身についた	23
ある程度身についた	8
やや不足	0
不足	0

「技術者に求められる基礎的なデザイン能力」が身につきましたか。
 ※これに対応する科目は、本科のものづくり関連科目や、専攻科のデザイン工学、創造デザイン演習です。

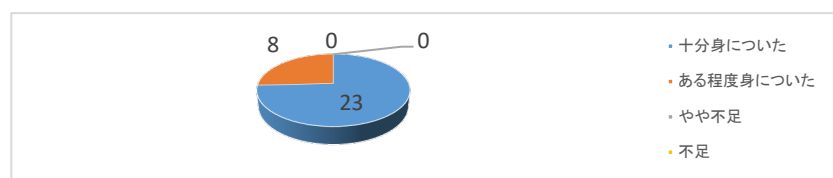
【関連する能力：課題発見、情報収集、情報分析、計画立案】



十分身についた	22
ある程度身についた	9
やや不足	0
不足	0

「コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力」が身につきましたか。
 ※コミュニケーション能力を育成する科目は、本科の英語、日本語に関する授業、専攻科の現代英語、技術者英語コミュニケーション演習、工学演習、特別研究です。プレゼンテーション能力は、各科目における発表で育成をしています。

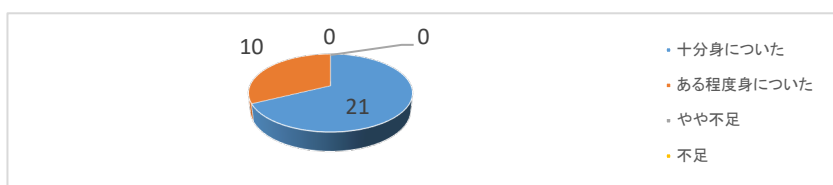
【関連する能力：言語処理、非言語処理、感情抑制】



十分身についた	23
ある程度身についた	8
やや不足	0
不足	0

「実践的能力と論理的思考能力」が身につきましたか。
 ※これに対応する科目は、本科の工学実験、専攻科の工学実験、インターンシップまたは海外インターンシップ、技術者総合ゼミナール、特別研究です。

【関連する能力：計画立案、原因追及、自己理解、統率力、協働力、親和力】



十分身についた	21
ある程度身についた	10
やや不足	0
不足	0

福井高専で受けた教育に対して、よかったと思われる点があれば、設備なども含めて率直にお聞かせください。

他学科を含めた授業が特に良かったと思う

グループワークが多くて会社に出た時に役に立つと思った。

プレゼンを用いた発表が多くあり人前で発表する能力が身についた。

研究室の環境が良かった。

自分のやりたいことを研究室や、工場で、自由に実践できる環境がよいと思いました。

自主性を養うことができた

福井高専で受けた教育に対して、改善したほうがよいと思われる点があれば、設備なども含めて率直にお聞かせください。

エアコンが寒いときでも使えない時期があった

英語を話す授業

施設が早いです。

休校などの連絡を早めにして欲しい

発行日 令和7年6月

編集 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
創造教育開発センター

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL : 0778-62-1118 <https://www.fukui-nct.ac.jp/>